

林野庁令和4年度木材製品の消費拡大対策及び国内森林資源活用・建築用木材
供給力強化対策事業費補助金
(建築用木材転換対策のうち建築用木材の転換促進支援事業)(補正第2号)

建築用木材の転換促進支援事業 事業報告書

令和6年3月

一般社団法人全国木材組合連合会

令和4年度補正予算 建築用木材の転換促進支援事業 事業報告書

第1章 事業の目的及び内容	2
1-1 事業の目的	
1-2 事業の内容	
1-3 事業の実施体制	
第2章 事業の実施概要	3
2-1 企画運営委員会	
2-2 公募の実施等	
第3章 事業の実績	12
3-1 申請の状況	
(1) 事業申請	
(2) 交付申請	
3-2 事業の分析	
第4章 事業で得られた成果と普及に向けた課題	17
4-1 本項でのねらい	
4-2 分析に当たって	
4-3 分析及び考察	
第5章 普及・広報活動	57
5-1 全国規模での普及・広報活動	
5-2 地域木材団体における普及・広報活動	

(巻末)

- ・様式第6号-2(製材)建築用木材の転換促進支援事業報告書(製材)様式第6号-3(CLT)建築用木材の転換促進支援事業報告書(CLT)
- ・建築用木材の転換促進支援事業申請書 別紙3「国産材等の利用に関する取組の状況」とりまとめ

第1章 事業の目的及び内容

1-1 事業の目的

本事業は、「総合的なTPP等関連政策大綱」(令和2年 12月8日TPP等総合対策本部決定)に即し、これまで木材利用が低位であった非住宅分野を中心とする建築物における木材利用を促進することに加え、建築用木材における国産の製品等への転換を促進するため、住宅の主要構造部等に国産の製品等を用いた設計・施工への転換・普及の取組を支援することにより、木材の新たな需要を創出することを目的とする。

1-2 事業の内容

本事業では、これまで木材利用が低位であった非住宅分野を中心とする建築物における木材利用を促進することに加え、建築用木材における国産の製品等への転換を促進するため、利用事業及び普及に係る取組を行った。

利用事業では、住宅の主要構造部等に品質・性能の確かな国産の製品等を利用する取組を実施した。

また、普及に係る取組としては、ホームページやSNSを積極的に活用して、設計者や工務店等の施工者に対し建築用木材の転換促進支援事業に係る情報提供を行うとともに広く一般消費者に対し、国産の製品等の利用に係る課題やメリット等の情報を発信し需要拡大の機運を高めた。

1-3 事業の実施体制

利用事業については一般社団法人全国木材組合連合会(以下「全木連」という。)に事務局を設置し、募集、審査、助成を行ったほか、全木連の構成員である地域木材団体(以下「県木連」という。)と協力し、より効果的な事業運営を図った。

具体的な実施内容

- ① 国産の製品等の利用促進に係る事業の実施の方向性等の検討のため、住宅の設計・施工における木材利用及び木材製品の製造・流通実態等について知見を有する学識経験者等から構成される企画運営委員会の設置
- ② 企画運営委員会で定めた方向性の下、住宅の主要構造部等に品質・性能の確かな国産の製品等を利用する取組を行う利用事業の公募、審査、選定、通知を実施
- ③ ②により選定された利用事業者に対して事業の進行管理、指導監督、検査、助成等の実施
- ④ 国産の製品等への利用における有益な知見を設計事業者や施工事業者等へ普及するための取組を実施
- ⑤ 本事業の成果等を取りまとめた報告書の作成

第2章 事業の実施概要

2-1 企画運営委員会

(1) 委員会メンバー

委員長	林 知行	秋田県立大学 名誉教授 (木質構造)
委員	青木 謙治	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授(木質構造)
	立花 敏	筑波大学 生命環境系森林資源経済学研究室 准教授(森林資源経済)
	黒田 尚宏	公益社団法人 日本木材加工技術協会 参与(木材加工)
	河合 誠	一般社団法人 日本CLT協会 顧問(CLT)
	山田 誠	一般社団法人 建築性能基準推進協会(防・耐火構造)

(2) 委員会開催内容

○第1回

日時:令和5年3月 24 日(金)15:00~16:30

場所:Web 会議

出席者:林委員長、青木委員、立花委員、黒田委員、河合委員、山田委員

議題:令和4年度 JAS 構造材実証支援事業等の実施状況について

令和5年度 JAS 構造材実証支援事業等の実施予定について

- 1) (R3補正)JAS 構造材実証支援事業、(R3繰越)都市における木材需要の拡大事業、(R4当初)都市における木材需要の拡大事業等について
①事業申請期間、②交付申請締切、③応募件数、審査結果等について確認した。
- 2) (R4補正)建築用木材の転換促進支援事業、(R4補正)JAS 構造材実証支援事業、(R4繰越)都市における木材需要の拡大事業、(R5当初)都市における木材需要の拡大事業について
①事業申請期間予定、②交付申請締切予定、③事業概要・予算等について確認した。

○第2回

日時:令和5年7月 11 日(火)14:00~15:30

場所:Web 会議

出席者: 林委員長、青木委員、立花委員、黒田委員、河合委員、山田委員

議題:令和5年度建築用木材の転換促進支援事業について

令和5年度 JAS 構造材実証支援事業及び都市における木材需要の拡大事業について

1) 令和5年度建築用木材の転換促進支援事業について

①「建築用木材の転換促進支援事業」(R4補正)の事業概要、②令和5年度建築用木材の転換促進支援事業の実施状況、③建築用木材の転換促進支援事業助成金公募要領(第2次募集)、④令和5年度事業スケジュールについて、報告・審議を行った。

2) 「JAS 構造材実証支援事業」(R4補正)外について

令和5年度実施「都市における木材需要の拡大事業」(R5当初、R4繰越)及び「JAS 構造材実証支援事業」(R4補正)の事業概要比較表について報告・審議を行った。

○第3回

日時:令和6年3月19日(火)10:30~12:00

場所:Web 会議

出席者:林委員長、青木委員、立花委員、黒田委員、河合委員、山田委員

議題:令和5年度 JAS 構造材実証支援事業等の実施状況について

令和6年度 JAS 構造材実証支援事業等の実施予定について

1) (R4補正)建築用木材の転換促進支援事業、(R4補正)JAS 構造材実証支援事業、(R4繰越)都市における木材需要の拡大事業、(R5当初)都市における木材需要の拡大事業について

①事業申請期間、②交付申請締切、③応募件数、審査結果等について説明し、承認された。

2) (R5補正)JAS 構造材実証支援事業、(R5繰越)都市における木材需要の拡大事業、(R5補正)花粉症対策木材利用促進事業について

①登録期間予定、②交付申請締切予定、③事業概要・予算等について説明し、承認された。なお、4月に開催予定のR6年度第1回企画運営委において、公募要領等について説明することとした。

2-2 公募の実施等

利用事業は、第1次募集及び第2次募集の2回行った。

(1) 公表

1) 第1次募集

日時:令和5年5月 23 日(火)

手順:全木連ホームページに、

- ・「令和5年度 建築用木材の転換促進支援事業」の募集を5月 30 日から開始します。
 - ・募集期間は、令和5年5月 30 日(火)から6月 30 日(金)までとなります。
 - ・なお、予算額と申請の状況により期限前に受付を締め切る場合があります。
- と案内した。

2) 第2次募集

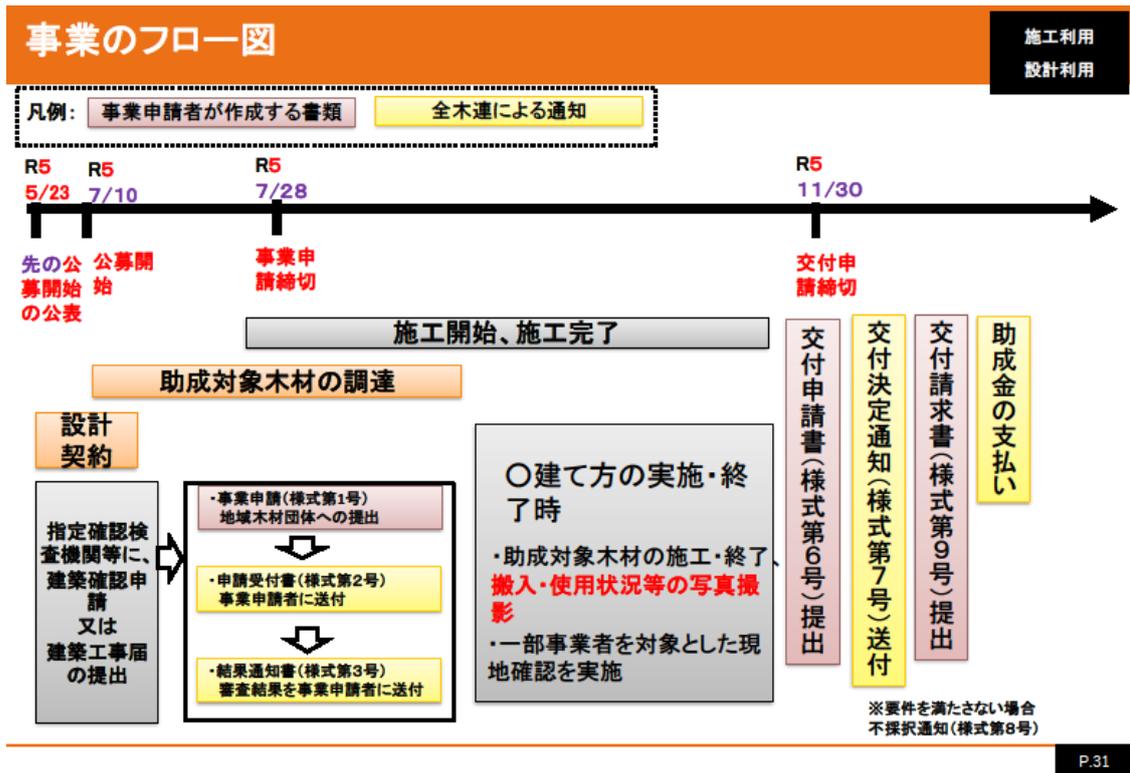
日時:令和5年6月 12 日(月)

手順:全木連ホームページに、

- ・「令和5年度 建築用木材の転換促進支援事業」の第2次募集を7月 10日から開始します。
 - ・募集期間は、令和5年7月 10 日(月)から7月 28 日(金)までとなります。
 - ・なお、予算額と申請の状況により期限前に受付を締め切る場合があります。
- と案内した。

○ 公表の具体的手法

- ① 令和5年建築用木材の転換促進支援事業助成金交付規程(以下「交付規程」という。)の長官承認を得た後、建築用木材の転換促進支援事業助成金公募要領等を作成し、全木連のホームページ(以下「HP」という。)において、公募要領、申請用様式、説明資料、写真撮影の手引き等を案内した。



HPで案内した説明資料の例

写真撮影の手引き

事業説明書「施工写真の撮影」の内容も踏まえ、「JAS製材の種類」「製材(乾燥材)の種類」「JAS構造材の種類」「その他JAS構造材の種類」に応じて撮影して下さい。

発注明細書（最終見積）、その内容が図示された図面と照合しながら、「JAS製材かどうか」「製材(乾燥材)かどうか」「JAS構造材かどうか」「その他JAS構造材かどうか」、「指定された部位に使われているか」、使われている場合には「JAS製材等の種類は何か」を確認しながら、下記の時点①～④および内容で撮影すること。

①	荷受・検収写真	JAS製材等が、建設現場で荷受けされた時（黒板あり）
※ 検収ごと（トラック搬入の場合はトラックごと）に撮影		
確認および 黒板記入		階、部材種ごとに「JAS製材」「製材(乾燥材)」「JAS構造材」「その他JAS構造材」か否か、数量などを確認して「区分」と確認できた「JASの種類」を書く
②	施工写真	助成される各階の建て方の終了時（黒板あり）
<p style="color: red;">【引いて撮る】</p> <p>※ 部材種ごと、「JAS製材」「製材(乾燥材)」「JAS構造材」「その他JAS構造材」の種類ごとに写す</p> <p>※ 助成材は、各完工時にも必ず撮影（合板、羽柄類も注意）</p> <p style="color: red;">【アップで撮る】</p> <p>※ JASマーク と種類の表示、製材(乾燥材)の表示を大きく鮮明に写す</p> <p>※ CLTは、構造用金物の接合部も撮影する</p>		
確認および 黒板記入		「JAS製材等」が階、指定部材に使われていることを確認して「区分」と確認できた「JAS材等の種類」を書く
③	内観写真	助成される各階の建て方の終了時（黒板なし）
※ JAS製材等の施工状態も含めて、各階の全体像がわかるように写す		
④	外観写真	建て方 完了時（黒板あり、なし）
※ 建物の全景を「2方向」から、一面は足場シートを開けて		
黒板記入		・撮影面（東面、道路面など） ・何階建、棟など

黒板に記入する事項

ア)	工事名	事業申請書「物件の名称」の通り
イ)	撮影日時	令和5年〇月〇日
ウ)	部材名称	部材種：土台、柱、梁・桁、トラス、床、壁、屋根、横架材などの別 確認できたJAS製材等の「区分」、「種類」を明記する

※ 上記の他に必要があれば、書き加えて下さい。（強度、含水率、樹種など）
内観・外観では、場所と撮影方向などが判るように書いて下さい。

HPで案内した写真撮影の手引きの例

- ② 申請希望者が事業内容を検討する際に必要な「建築用木材の転換促進支援事業助成金公募要領」第2(用語及び定義)の3 乾燥材に定める「製材のうち乾燥材であることについて第三者(申請者や木材供給者以外の者)による認証を受けたもの(天然乾燥材を含む。)」に該当する都道府県の乾燥認証材について、該当する県木連に照会等して以下のとおり整理し、HPで案内した。

都道府県認証乾燥材

「建築用木材の転換促進支援事業助成金公募要領」第2(用語及び定義)の3 乾燥材に定める「製材のうち乾燥材であることについて第三者(申請者や木材供給者以外の者)による認証を受けたもの(天然乾燥材を含む。)」に該当する都道府県の認証乾燥材については、以下のとおりです。

都道府県No.	認証乾燥材制度の名称	認定(認証)機関
4	優良品やぎ材製品	みやぎ材利用センター
5	乾燥秋田スギ認証製品	乾燥秋田スギ製品生産促進協議会
10	ぐんま優良木材製品	ぐんま優良木材品質認証センター
14	かながわブランド県産木材	かながわ森林・林材業活性化協議会
20	信州木材認証製品	信州木材認証製品センター
21	ぎふ性能表示材	ぎふ性能表示材認証センター
22	しずおか優良木材	しずおか優良木材供給センター
24	三重の木	「三重の木」利用推進協議会
26	京都木材規格(KTS)	一般社団法人京都府木材組合連合会
29	奈良県地域認証材	奈良県地域材認証センター
35	優良県産木材	やまぐち県産木材認証センター
44	大分方式乾燥材	大分県産材流通情報センター
46	認証かごしま材	かごしま材認証協議会

- ※1 製材品ごとに認証マークや認証シールを貼付又は印字している場合は該当する。
 ※2 製材品ごとに認証マークや認証シールを貼付又は印字していない場合は、見積書、納品書又は出荷証明書で、都道府県の認証乾燥材であることが確認できた場合は該当する。

- ③ 事業内容等を広く周知するため、事業の開始に当たり、令和5年4月12日及び令和5年6月21日の2回、Web会議により県木連等への説明を実施した。

さらに、9月29日に、Web会議により県木連等に対して事業の進捗状況を説明し、事業の円滑な進捗に関する協力依頼等に関する意見交換を行った。

都道府県木連事務局担当者打合せ次第

開催日時 令和5年4月12日（水）14：00～16：00

開催方法 ZOOMによるWEB会議

出席者 各都道府県木連 事務局長 担当者
全木連、全木協連 担当者

打合せ事項

- 1 令和5年度 補助事業の取組について
 - ① JAS 構造材実証支援事業（R4 補正繰越）
 - ② 建築用木材の転換促進支援事業（R4 補正繰越）
 - ③ 木材流通における転換促進支援事業（R4 補正繰越）
 - ④ 都市における木材需要の拡大事業（R4 当初繰越、R5 当初）
 - ⑤ 顔の見える木材供給体制支援事業（R5 当初）
 - ⑥ クリーンウッド法関連事業
 - ⑦ 外構部等の木質化対策支援事業（R4 補正繰越 全木協連事業）
 - ⑧ 各都道府県木連が実施する普及事業
- 2 全木連が実施している技術開発、普及事業
- 3 全木協連事業（福利厚生事業、利子助成事業）
- 4 その他
 - ① 外国人材関係、労働安全関係、免税軽油関係
 - ② 会計検査院対応
 - ③ JAS 展示会
 - ④ CW 法の見直し
 - ⑤ 物流の2024問題
 - ⑥ その他
- 5 質疑

Web会議の資料例

- ④ 全木連において相談窓口を開設し、事業の内容・実施方法等について、助成希望者からの質問、相談に対応した。

(2) 事業申請

期間 第1次:令和5年5月 30 日(火)から6月 30 日(金)まで
第2次:令和5年7月 10 日(月)から7月 26 日(水)まで

手順 県木連が申請者から受け付けた申請書類を全木連で受付後、事務局において書類での審査を行った。

公募要領で示した、物件、申請物件の柱及び横架材の総材積の半数以上に製材を使用すること、助成対象などが公募要領の規定を満たしていることを確認し、併せて、転換事業申請書及び付属資料、建築確認申請書、見積明細書、図面、事業者と施主の誓約書などについて、チェックシート等により書面審査を行った。

(3) 交付申請

期間 第1次:事業が完了した日から起算して1か月を経過した日
又は令和5年 10 月 20 日(金)のいずれか早い期日まで
第2次:事業が完了した日から起算して1か月を経過した日
又は令和5年 11 月 30 日(木)のいずれか早い期日まで

手順 県木連が申請者から受け付けた申請書類を全木連で受付後、事務局において書類での審査を行った。

公募要領で示した、助成対象木材の種類、JAS材の使用量、調達費、設計費などが公募要領の規定を満たしていることを確認し、併せて、建築確認済証、契約書、請求書、領収書、図面、工事記録写真、助成対象木材がクリーンウッド法に基づき合法性を確認した木材であることを示す書面などについてチェックシート等により書面審査を行った。

(4) 現地確認

新潟県木連の6件を筆頭に、25 都府県木連において 44 件の事業、また全木連においても唯一のCLT施工案件について、以下の点を中心に現地確認を行ったところ、問題なく施工管理されていた。

- ① 申請時の図面と施工現地が一致しているか
- ② JAS 製材又は乾燥材の利用状況の確認(概ね全体使用予定量の半数以上について確認)
- ③ CLT の利用状況の確認(構造耐力上主要な部分※において、CLT を木造部で使用しているか確認)

④ 構造用集成材、LVL、構造用合板、構造用パネルの利用状況の確認

※構造耐力上主要な部分:基礎、基礎ぐい、壁、柱、小屋組、土台、斜材(筋かい、方づえ、火打材その他これらに類するものをいう。)、床版、屋根版又は横架材(はり、けたその他これらに類するものをいう。))で、建築物の自重若しくは積載荷重、積雪荷重、風圧、土圧若しくは水圧又は地震その他の震動若しくは衝撃を支えるもの



(2階 床パネル (210 mm))



(1階 接合金物)



(屋根 CLT パネル (2F 主寝室))



(2階床パネル (210 mm))

CLT施工案件の現地確認例

第3章 事業の実績

3-1 申請の状況

(1) 事業申請

利用事業では 208 件の事業申請があり、うち 166 件を採択し、42 件を不採択とした。なお、不採択の内訳は申請者からの取下げ 19 件、要件未達 14 件、交付申請なし6件、事業申請書類不備3件であった。採択した 166 件の内訳は以下のとおりである。

(内訳)

主要用途	軸組工法	枠組壁工法	計
1 戸建ての住宅	104	53	157
住宅兼事務所	1	0	1
住宅兼店舗	4	0	4
居住専用建築物	3	1	4
計	112	54	166

(2) 交付申請

利用事業では 166 件の交付申請があり、うち 161 件を交付決定し、5件を取下げ承認した。交付決定した 161 件の内訳は以下のとおりである。

(内訳)

主要用途	軸組工法	枠組壁工法	計
1 戸建ての住宅	101	52	153
住宅兼事務所	1	0	1
住宅兼店舗	3	0	3
居住専用建築物	3	1	4
計	108	53	161

3-2 事業の分析

交付決定数として161件の利用事業が行われ、分析結果は以下のとおりであった。
 なお、端数処理の関係で、合計値が100%にならない場合がある。

(1) 主要用途別交付決定件数・額

主要用途別交付決定件数・額の内訳は次表のとおりであった。

表に示したとおり、主要用途別では1戸建ての住宅が153件(95%)、居住専用建築物(建築工事届)が4件(2%)、住宅兼店舗が3件(2%)、住宅兼事務所が1件(1%)であった。

建物階数別では、2階が121件(75%)、1階が28件(17%)、3階が12件(7%)であった。

木造部の助成対象面積は、全体で18,248㎡で、1件当たり113㎡であった。

なお、交付決定額は、全体で196,829千円で、1件当たり1,223千円であった。

主要用途別では1戸建ての住宅が186,726千円(95%)で大多数を占め、居住専用建築物(建築工事届)が4,362千円(2%)、住宅兼店舗が3,642千円(2%)、住宅兼事務所が2,099千円(1%)で、構成割合は件数と全く同じであった。

建物階数別では、2階が148,456千円(75%)、1階が32,116千円(16%)、3階が16,257千円(8%)であった。

主要用途別交付決定数・額

主要用途	建物階数	交付決定件数	交付決定件数の構成割合	木造部の助成対象面積(㎡)	1件当たり木造部の助成対象面積(㎡/件)	交付決定額(千円)	交付決定額の構成割合	1件当たりの交付決定額(千円)
一戸建ての住宅	1	23	14%	2,275	99	26,668	14%	1,159
	2	118	73%	13,407	114	143,801	73%	1,219
	3	12	7%	1,633	136	16,257	8%	1,355
計		153	95%	17,315	113	186,726	95%	1,220
住宅兼店舗	1	1	1%	93	93	1,086	1%	1,086
	2	2	1%	409	205	2,556	1%	1,278
	3	0	0%	0	-	0	0%	-
計		3	2%	502	167	3,642	2%	1,214
住宅兼事務所	1	0	0%	0	-	0	0%	-
	2	1	1%	96	96	2,099	1%	2,099
	3	0	0%	0	-	0	0%	-
計		1	1%	96	96	2,099	1%	2,099
居住専用建築物 (建築工事届)	1	4	2%	335	84	4,362	2%	1,091
	2	0	0%	0	-	0	0%	-
	3	0	0%	0	-	0	0%	-
計		4	2%	335	84	4,362	2%	1,091
主要用途計	1	28	17%	2,703	97	32,116	16%	1,147
	2	121	75%	13,912	115	148,456	75%	1,227
	3	12	7%	1,633	136	16,257	8%	1,355
計		161	100%	18,248	113	196,829	100%	1,223

(2) 都道府県別交付決定件数・額

都道府県別の交付決定件数・額の内訳は次表のとおりであった。

表に示したとおり、交付決定件数では、新潟県(28件)、千葉県(18件)、神奈川県(17件)、山形県(14件)、静岡県(12件)、東京都(11件)と2桁件数は広域首都圏が多く5都県が該当し、また上位6都県で62%を占め、交付決定に関する県の偏りがあった。また、交付決定額では、新潟県、千葉県、静岡県、神奈川県、山形県、東京都の順であった。

県別交付決定数・額

(単位：件、千円)

都道府県	交付決定数			交付決定額		
	軸組 工法	枠組 壁工法		軸組 工法	枠組 壁工法	
青森県	2	0	2	1,726	0	1,726
宮城県	1	0	1	1,017	0	1,017
秋田県	1	0	1	883	0	883
山形県	12	2	14	15,286	1,829	17,115
茨城県	0	2	2	0	2,097	2,097
群馬県	1	0	1	707	0	707
埼玉県	1	3	4	2,069	4,347	6,416
千葉県	2	16	18	1,655	20,133	21,788
神奈川県	5	12	17	3,412	13,983	17,395
東京都	3	8	11	3,860	11,395	15,255
新潟県	28	0	28	31,525	0	31,525
富山県	2	0	2	3,155	0	3,155
石川県	1	0	1	563	0	563
長野県	5	0	5	8,543	0	8,543
静岡県	12	0	12	17,610	0	17,610
愛知県	3	0	3	4,063	0	4,063
三重県	3	0	3	5,789	0	5,789
大阪府	0	3	3	0	4,244	4,244
兵庫県	6	3	9	5,674	4,243	9,917
岡山県	1	0	1	818	0	818
広島県	3	0	3	3,380	0	3,380
徳島県	2	0	2	1,627	0	1,627
愛媛県	2	0	2	2,372	0	2,372
高知県	2	0	2	2,044	0	2,044
福岡県	1	2	3	2,429	2,050	4,479
熊本県	1	0	1	957	0	957
宮崎県	6	2	8	7,471	2,280	9,751
鹿児島県	2	0	2	1,593	0	1,593
合計	108	53	161	130,228	66,601	196,829

(3) 工法別木材種類別材積

工法別木材種類別材積(助成対象分)の内訳は次表のとおりであった。

表に示したとおり、全体の材積割合では、軸組工法が 1,943.59 m³で 63%を占め、残り 37%が枠組壁工法で 1,126.84 m³であった。

なお、軸組工法の木材種類別は、機械等級区分製材が 819.74 m³(27%)、構造用合板が 399.93 m³(13%)、JAS以外の製材乾燥材が 316.69 m³(10%)、目視等級区分製材乾燥材が 217.34 m³(7%)、構造用集成材が 158.40 m³(5%)、直交集成板(CLT)が 30.62 m³(1%)、構造用パネルが 0.88 m³(0%)の順に多かった。

また、枠組壁工法の木材種類別は、枠組壁工法用製材が 816.14 m³(27%)、構造用合板が 247.37 m³(8%)、構造用集成材が 45.11 m³(1%)、構造用LVLが 10.46 m³(0%)の順に多かった。 ※()内は占有率

さらに、両工法を合わせた全体では、多い順に、機械等級区分製材、枠組壁工法用製材、構造用合板、JAS以外の製材乾燥材、目視等級区分製材乾燥材、構造用集成材、直交集成板(CLT)、構造用LVL、構造用パネルであった。

工法別木材種類別材積

助成対象木材の種類		軸組工法	枠組壁工法	合計
1.機械等級区分製材	材積 (m ³)	819.74	0.00	819.74
	占有率 (%)	27	0	27
2.目視等級区分製材乾燥材	材積 (m ³)	217.34	7.77	225.11
	占有率 (%)	7	0	7
3.枠組壁工法用製材	材積 (m ³)	0.00	816.14	816.14
	占有率 (%)	0	27	27
4.JAS以外の製材乾燥材	材積 (m ³)	316.69	0.00	316.69
	占有率 (%)	10	0	10
5.直交集成板(CLT)	材積 (m ³)	30.62	0.00	30.62
	占有率 (%)	1	0	1
6.構造用集成材	材積 (m ³)	158.40	45.11	203.51
	占有率 (%)	5	1	7
7.構造用LVL	材積 (m ³)	0.00	10.46	10.46
	占有率 (%)	0	0	0
1~7小計	材積 (m ³)	1,542.79	879.48	2,422.27
	占有率 (%)	50	29	79
8.構造用合板	材積 (m ³)	399.93	247.37	647.29
	占有率 (%)	13	8	21
9.構造用パネル(OSB)	材積 (m ³)	0.88	0.00	0.88
	占有率 (%)	0	0	0
合計	材積 (m ³)	1,943.59	1,126.84	3,070.44
	占有率 (%)	63	37	100

(4) 申請区分別交付決定件数・額

申請区分別の内訳は次表のとおりであった。

表に示したとおり、施工利用のみが136件、154,833,000円で、施工利用+設計利用が25件、41,996,000円で、施工利用のみの占める割合は、件数では84%、金額では79%であった。

申請区分別交付決定件数・額

申請区分別	件数		金額	
施工利用	136	件	154,833,000	円
施工利用+設計利用	25	件	41,996,000	円
計	161	件	196,829,000	円

第4章 事業で得られた成果と普及に向けた課題

4-1 本項でのねらい

本項では、申請者が本事業完了後に報告した「様式6-2」(製材)(以下「データ」という。)を分析することにより、国産材製材(JAS材、乾燥材)等を取り巻く現状の把握、申請者の考えや取組の把握、及び国産材製材(JAS材、乾燥材)等の普及に向けた課題の整理等を行うことをねらいとした。なお、「様式6-3」(CLT)については、該当が1者であったため、4-4 CLT に関する回答において、回答内容のみの紹介に留めることとする。

4-2 分析に当たって

製材利用に関しての分析対象は、160(交付決定者 161 回答のうち 1 回答については、システムの不具合により集計用 CSV ファイルに集計できなかったため 1 減)である。

なお、可能な限り申請者の意図を分析に反映させたい等の理由から、単純な誤記や、申請者の勘違いによる回答の不備は、他の回答と整合する形で修正して使用した。また、申請者が選択肢を選ばず、「無回答」とする場合もあったが、「無回答」も申請者の意思を反映するひとつの手段と捉え、他選択肢と同列に扱った。さらに、【自由記載】の回答については、その趣旨を変更しないよう留意の上、文量を調整した。

また、本項の表において、端数処理の関係で、合計値が 100%にならない場合もある。加えて、図中に示した選択肢及び凡例の表現を簡略化した部分は、隣に全文を記載しているので参考にしていただきたい。

参考として、巻末に『様式第6号-2(製材)建築用木材の転換促進支援事業報告書(製材)様式第6号-3(CLT)建築用木材の転換促進支援事業報告書(CLT)』を添付した。

4-3 分析及び考察

1. 申請物件の部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種(施工利用):回答数 160 者

※回答者が0の選択肢は、グラフ上の選択肢から外している。以下、本報告書内で共通。

(1) 各部材における国産材の使用割合(材積)

部材別の国産材の使用割合は、次頁の図 4-1 のとおりであった。なお、部材内の()内の例示は、本章に限り適用される。

ア 柱材(管柱・通し柱)

「75%以上」が 103 者(64%)で最も多く、続いて「0%~25%未満」が 42 者(26%)、「50%~75%未満」が 8 者(5%)、「25%~50%未満」が 7 者(4%)の順であった。

イ 横架材(土台・大引・母屋・棟木以外の横架材)

「0%～25%未満」が 84 者(53%)で最も多く、続いて「75%以上」が 59 者(37%)、
「25%～50%未満」が 10 者(6%)、「50%～75%未満」が 7 者(4%)の順であった。

ウ 土台等(土台、大引、母屋・棟木)

「75%以上」が 75 者(47%)で最も多く、続いて「0%～25%未満」が 53 者(33%)、
「25%～50%未満」が 17 者(11%)、「50%～75%未満」が 15 者(9%)の順であった。

エ 羽柄材(間柱、筋交い、その他非構造部材)

「75%以上」が 69 者(43%)で最も多く、続いて「0%～25%未満」が 66 者(41%)、
「25%～50%未満」が 13 者(8%)、「50%～75%未満」が 12 者(8%)の順であった。

オ 面材(床、外壁、屋根等)

「75%以上」が 58 者(36%)で最も多く、続いて「50%～75%未満」が 51 者(32%)、
「0%～25%未満」が 36 者(23%)、「25%～50%未満」が 15 者(9%)の順であった。

カ 内装材・造作材

「0%～25%未満」が 101 者(63%)で最も多く、続いて「75%以上」が 32 者(20%)、
「25%～50%未満」が 17 者(11%)、「50%～75%未満」が 10 者(6%)の順であった。

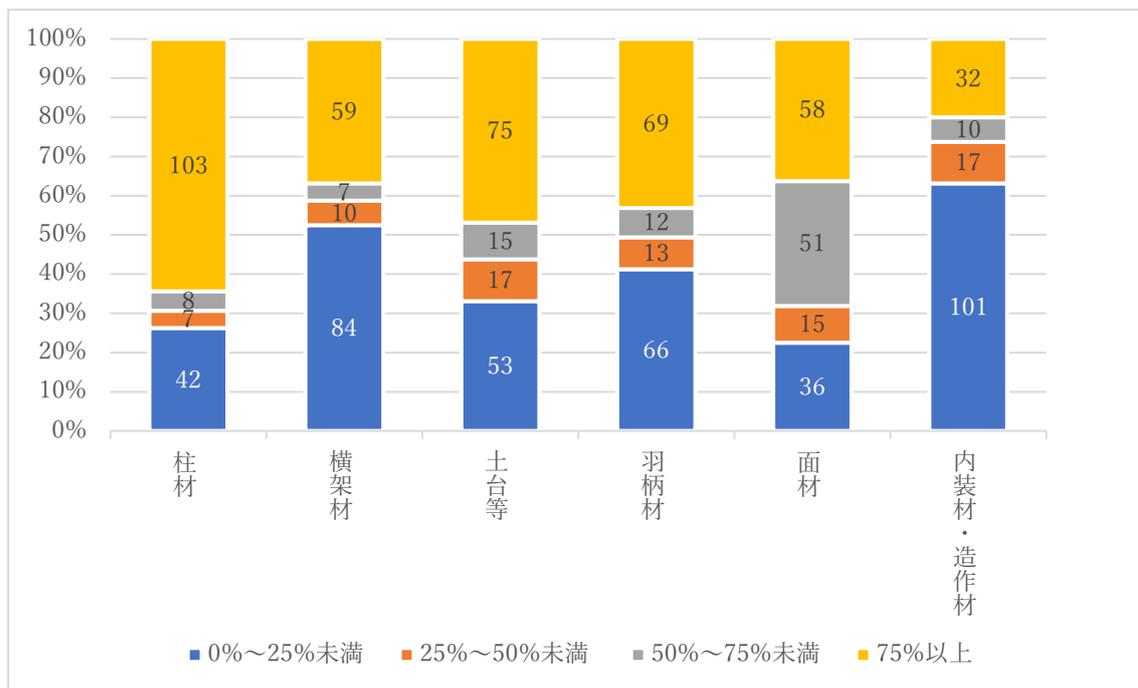


図 4-1 各部材における国産材の使用割合(材積)

(2) 各部材における最も多い材種の製品【1つ選択】

各部材における最も多い材種の製品は、図 4-2 から図 4-7 のとおりであった。

柱材では、「製材(JAS)」が 112 者(70%)で最も多く、続いて「製材(乾燥材)」が 29 者(18%)、「集成材」が 19 者(12%)の順であった。

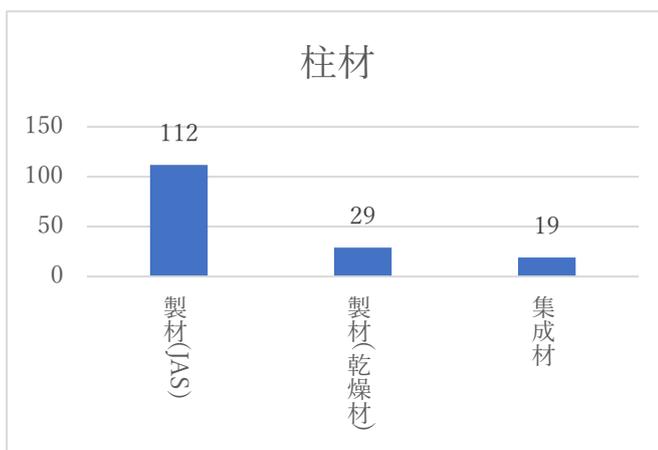


図 4-2 柱材における最も多い材種の製品

横架材では、「製材(JAS)」が 124 者(78%)で最も多く、続いて「製材(乾燥材)」が 30 者(19%)、「LVL」及び「その他」が各2者(1%)、「集成材」及び「無回答」が各1者(1%)の順であった。

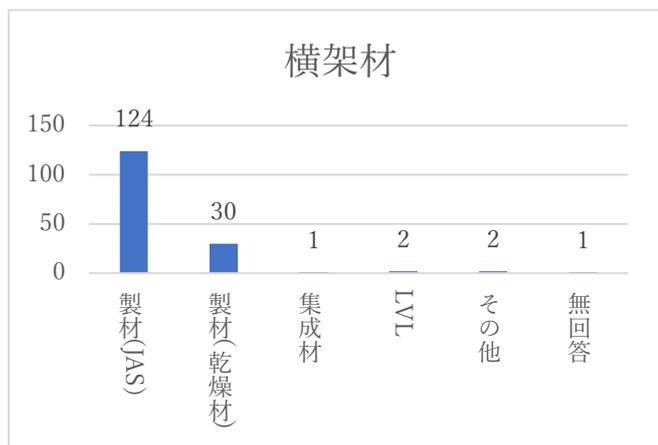


図 4-3 横架材における最も多い材種の製品

土台等では、「製材(JAS)」が 82 者(51%)で最も多く、続いて「製材(乾燥材)」が 65 者(41%)、「製材(未乾燥)」及び「その他」が各4者(3%)、「集成材」が3者(2%)、「LVL」及び「無回答」が各1者(1%)の順であった。

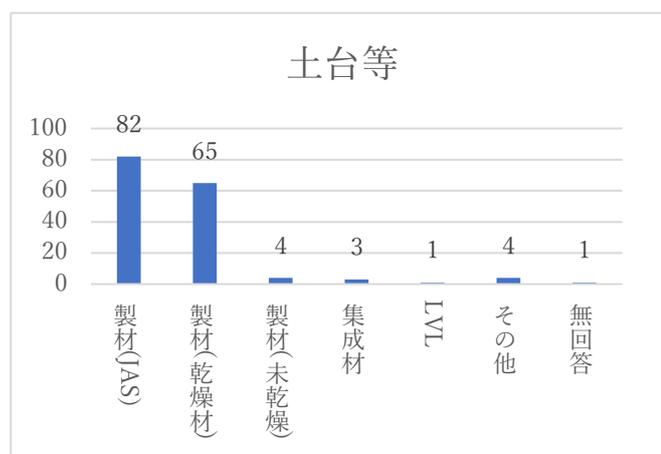


図 4-4 土台等における最も多い材種の製品

羽柄材では、「製材（乾燥材）」が77者（48%）で最も多く、続いて「製材（JAS）」が62者（39%）、「その他」が15者（9%）、「製材（未乾燥）」が3者（2%）、「集成材」が2者（1%）、「無回答」が1者（1%）の順であった。

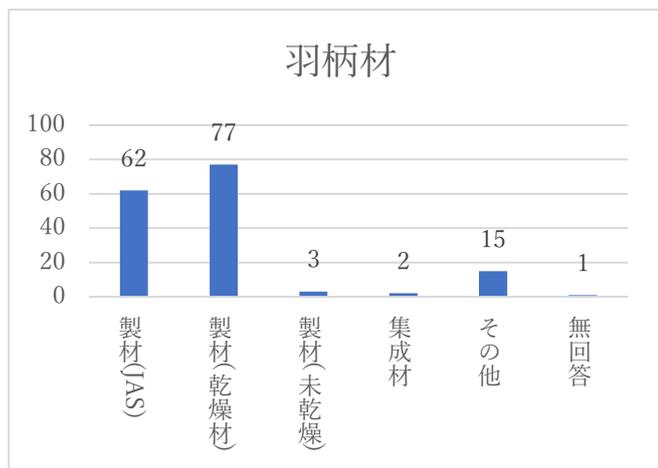


図 4-5 羽柄材における最も多い材種の製品

面材では、「合板」が149者（93%）で最も多く、続いて「パーティクルボード」が5者（3%）、「構造用パネル(OSB)」及び「その他」が各2者（1%）、「無機系面材」及び「製材(荒床材、きずり、野地板)」が各1者（1%）の順であった。

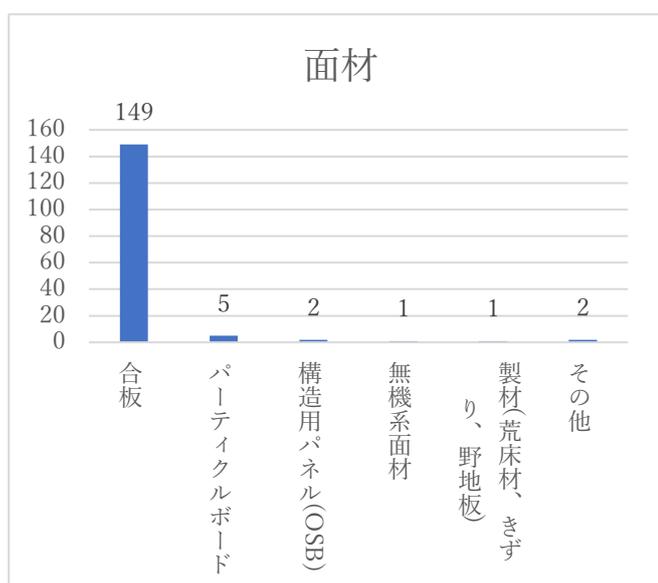


図 4-6 面材における最も多い材種の製品

内装材・造作材では、「その他」が63者（39%）で最も多く、続いて「製材（乾燥材）」が39者（24%）、「集成材」が24者（15%）、「製材（JAS）」が18者（11%）、「非木質系部材」及び「無回答」が各7者（4%）、「製材（未乾燥）」が2者（1%）の順であった。

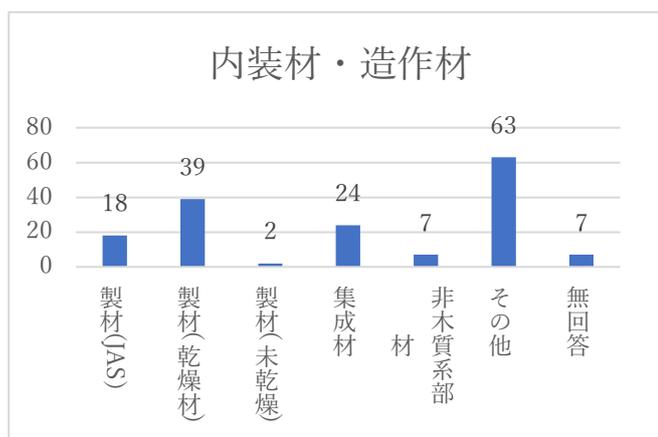


図 4-7 内装材・造作材における最も多い材種の製品

(3) (2)で選択した製品の主な樹種【1つ選択】

各部材における(2)で選択した製品の主な樹種は、図 4-8 から図 4-13 のとおりであった。

柱材では、「スギ」が 94 者 (59%) で最も多く、続いて「SPF」が 32 者 (20%)、「ヒノキ」が 19 者 (12%)、「ベイマツ」及び「ホワイトウッド」が各 5 者 (3%)、「レッドウッド」が 4 者 (3%)、「無回答」が 1 者 (1%) の順であった。

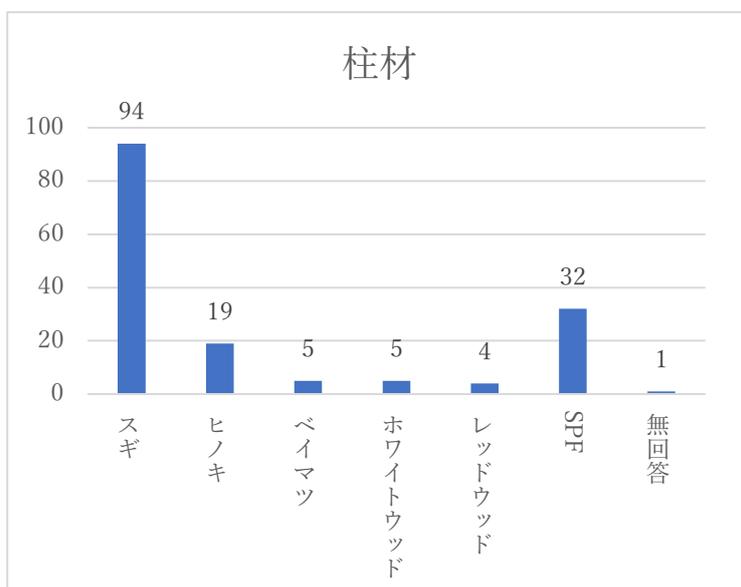


図 4-8 柱材における(2)で選択した製品の主な樹種

横架材では、「スギ」が 51 者 (32%) で最も多く、続いて「ベイマツ」が 50 者 (31%)、「SPF」が 41 者 (26%)、「ヒノキ」が 5 者 (3%)、「レッドウッド」及び「その他」が各 3 者 (2%)、「国産カラマツ」及び「ホワイトウッド」が 2 者 (1%)、「トドマツ」、「ベイツガ」及び「樹種不明」が各 1 者 (1%) の順であった。

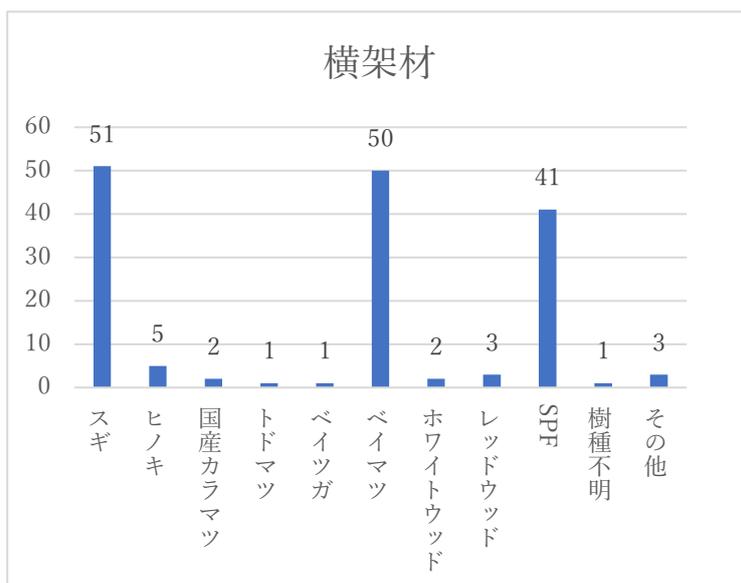


図 4-9 横架材における(2)で選択した製品の主な樹種

土台等では、「ヒノキ」が64者(40%)で最も多く、続いて「ベイツガ」が30者(19%)、「スギ」が28者(18%)、「ベイマツ」が27者(17%)、「SPF」及び「その他」が各3者(2%)、「ホワイトウッド」が2者(1%)、「国産カラマツ」、「レッドウッド」及び「樹種不明」が各1者(1%)の順であった。

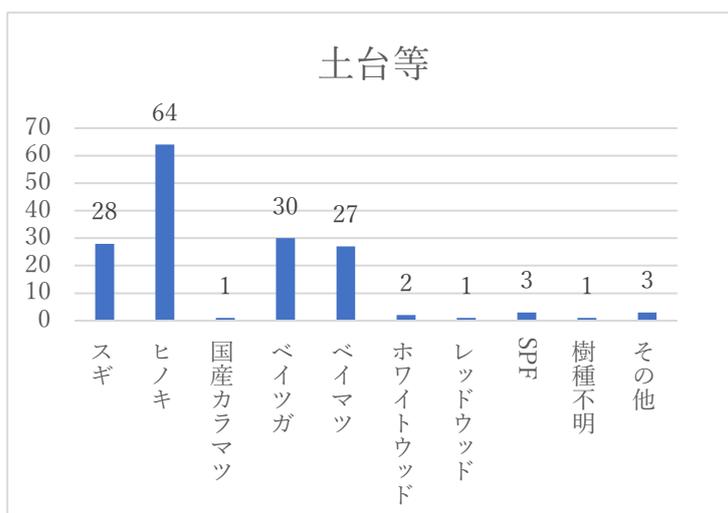


図 4-10 土台等における(2)で選択した製品の主な樹種

羽柄材では、「スギ」が78者(49%)で最も多く、続いて「SPF」が36者(23%)、「ホワイトウッド」が19者(12%)、「その他」が7者(4%)、「ベイマツ」及び「レッドウッド」が各6者(4%)、「ヒノキ」が4者(3%)、「無回答」が2者(1%)、「ロシアアカマツ・エゾマツ」及び「樹種不明」が各1者(1%)の順であった。



図 4-11 羽柄材における(2)で選択した製品の主な樹種

面材では、「スギ」が80者(50%)で最も多く、続いて「樹種不明」が30者(19%)、「国産カラマツ」が20者(13%)、「その他」が11者(7%)、「ヒノキ」が10者(3%)、「ベイマツ」が6者(4%)、「ホワイトウッド」、「SPF」及び「無回答」が各1者(1%)の順であった。

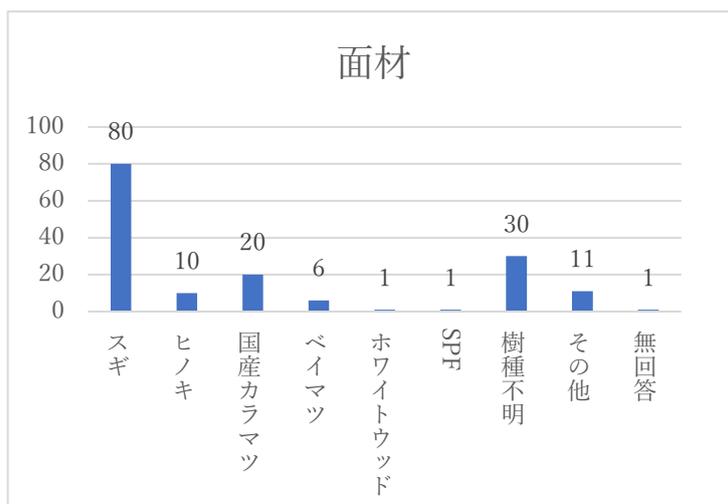


図 4-12 面材における(2)で選択した製品の主な樹種

内装材・造作材では、「その他」が 59 者(37%)で最も多く、続いて「スギ」が 45 者(28%)、「樹種不明」が 21 者(13%)、「ヒノキ」及び「レッドウッド」が各 7 者(4%)、「SPF」及び「無回答」が各 6 者(4%)、「ベイマツ」が 3 者(2%)、「ホワイトウッド」及び「ロシアアカマツ・エゾマツ」が各 2 者(1%)、「国産カラマツ」及び「ベイツガ」が各 1 者(1%)の順であった。

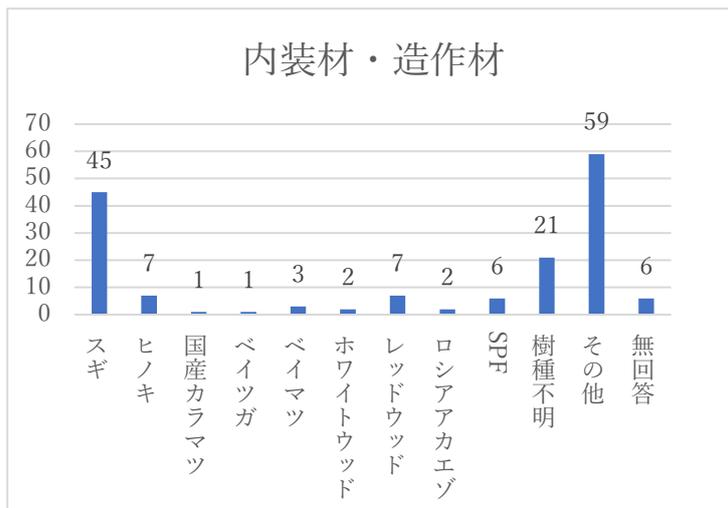


図 4-13 内装材・造作材における(2)で選択した製品の主な樹種

2. 主要構造部における国産材製材の使用状況及びメリット・デメリットについて(施工利用):回答数 160 者

(1) これまでの施工物件と比較して、申請物件における国産材製材(JAS 材・乾燥材)の使用量の変化(材積):回答数 160 者

部材別の、これまでの施工物件と比較して、申請物件における、国産材製材の使用量は変化したかどうかについては、次頁の図 4-14 のとおりであった。

柱材については、「変わらない」が 73 者(46%)で最も多く、続いて「増加した」が 53 者(33%)、「減少した」が 28 者(18%)、「無回答」が 6 者(4%)の順であった。

また、横架材については、「変わらない」が 101 者(63%)で最も多く、続いて「増加した」が 45 者(28%)、「無回答」が 11 者(7%)、「減少した」が 3 者(2%)の順であった。

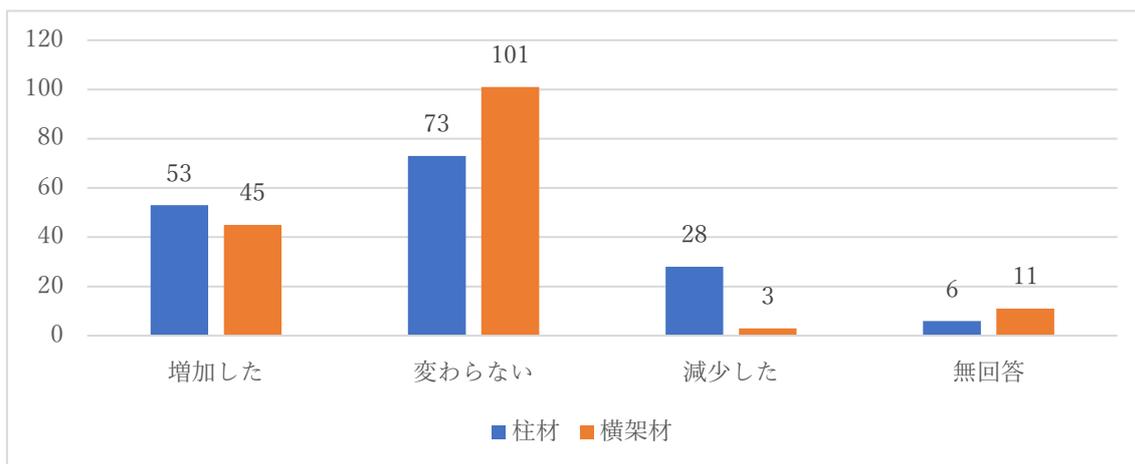


図 4-14 これまでの施工物件と比較して、国産材製材の使用量は変化したか

(2) 国産材製材 (JAS 材・乾燥材) の施工上におけるメリット【複数選択可】

各部材における国産材製材 (JAS 材・乾燥材) の施工上におけるメリットは、次頁の図 4-15 のとおりであった。

柱材では、「施主への印象が良い」が 77 者 (48%) で最も多く、続いて「施工がしやすい」が 63 者 (39%)、「供給が安定している」が 51 者 (32%)、「必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすい」が 42 者 (26%)、「品質(反り・ひねり)のばらつきが少ない」が 39 者 (24%)、「材面の見栄えが良い」が 37 者 (23%)、「必要な寸法が入手しやすい」が 34 者 (21%)、「強度や曲げ性能が良い」が 34 者 (21%)、「必要な量が入手しやすい」が 33 者 (21%)、「必要な含水率のものが入手しやすい」が 28 者 (18%)、「納品が早い」が 26 者 (16%)、「価格が安い」が 15 者 (9%)、「調達先の選択肢が多い」が 14 者 (9%)、「無回答」が 6 者 (4%)、「その他」が 2 者 (1%) の順であった。なお、「その他」は、2 者とも「補助金を活用できる」であった。

また、横架材では、「施主への印象が良い」が 63 者 (39%) で最も多く、続いて「施工がしやすい」が 55 者 (34%)、「供給が安定している」が 43 者 (27%)、「品質(反り・ひねり)のばらつきが少ない」が 42 者 (26%)、「必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすい」が 40 者 (25%)、「材面の見栄えが良い」が 32 者 (20%)、「強度や曲げ性能が良い」が 29 者 (18%)、「必要な寸法が入手しやすい」が 27 者 (17%)、「必要な含水率のものが入手しやすい」が 25 者 (16%)、「必要な量が入手しやすい」が 25 者 (16%)、「納品が早い」が 23 者 (14%)、「無回答」が 16 者 (10%)、「価格が安い」が 12 者 (8%)、「調達先の選択肢が多い」が 10 者 (6%) の順であった。

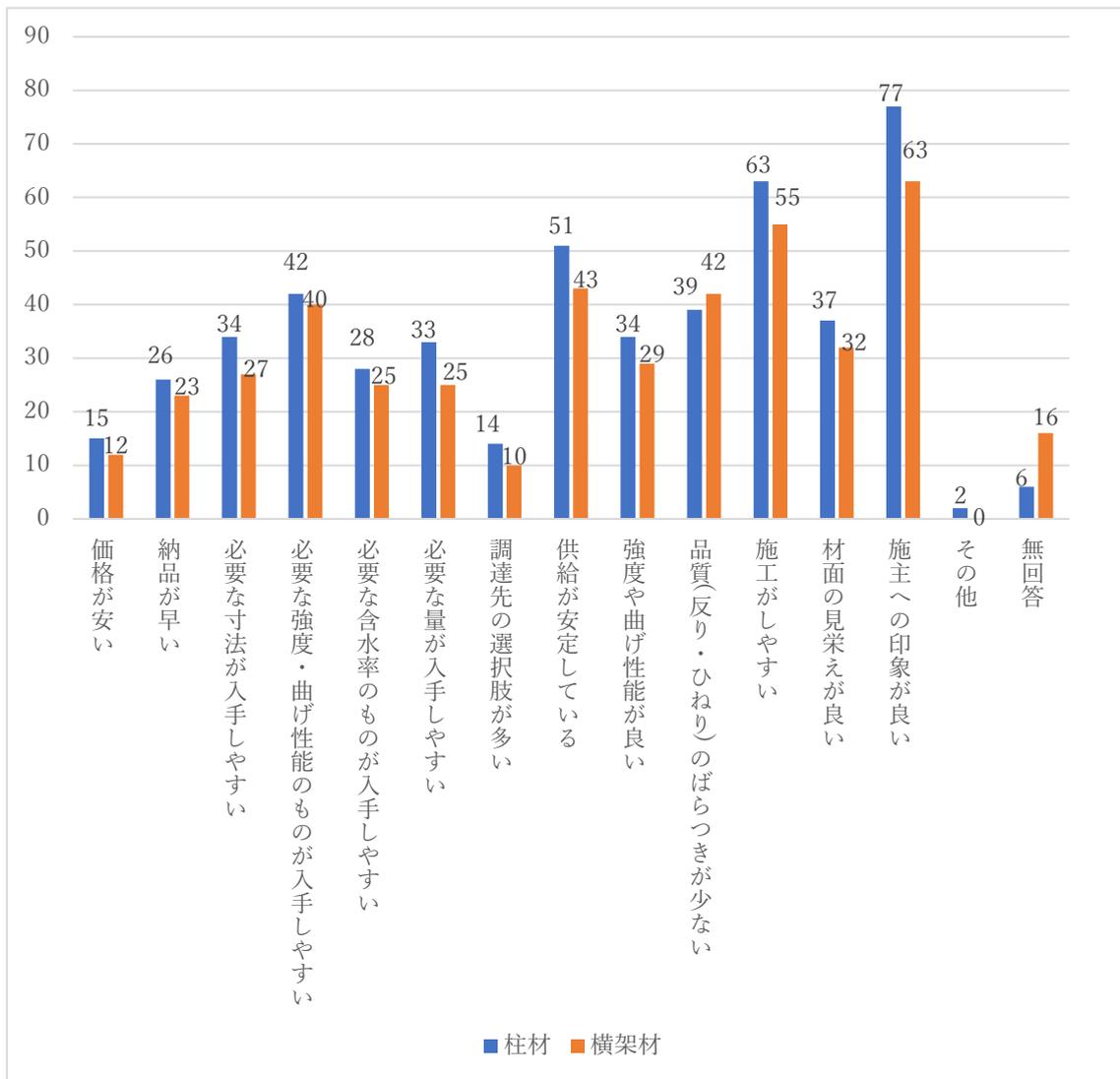


図 4-15 国産材製材(JAS 材・乾燥材)の施工上におけるメリット

(3) 国産材製材(JAS 材・乾燥材)の施工上におけるデメリット【複数選択可】

各部材における国産材製材(JAS 材・乾燥材)の施工上におけるデメリットは、次頁の図 4-16 のとおりであった。

柱材では、「価格が高い」が 118 者(74%)で最も多く、続いて「必要な強度・曲げ性能のものが入手しにくい」が 28 者(18%)、「調達先の選択肢が少ない」が 24 者(15%)、「納品が遅い」及び「強度や曲げ性能が良くない」が各 18 者(11%)、「必要な寸法が入手しにくい」が 14 者(9%)、「供給が安定していない」及び「無回答」が各 10 者(6%)、「必要な量が入手しにくい」及び「その他」が各 6 者(4%)、「材面の見栄えが良くない」が 4 者(3%)、「必要な含水率のものが入手しにくい」が 3 者(2%)、「品

質(反り・ひねり)のばらつきが多い」が2者(1%)、「施工がしにくい」及び「施主への印象が良くない」が各1者(1%)の順であった。なお、「その他」6者は、「特になし」が4、「国産材製材を使用するメリットがデメリットを上回る」が1、「持続可能社会に木材の利用は必須事項」が1であった。

また、横架材では、「価格が高い」が110者(69%)で最も多く、続いて「必要な強度・曲げ性能のものが入手しにくい」が55者(34%)、「調達先の選択肢が少ない」が25者(16%)、「納品が遅い」及び「無回答」が各19者(12%)、「必要な寸法が入手しにくい」が16者(10%)、「強度や曲げ性能が良くない」が14者(9%)、「必要な量が入手しにくい」が11者(7%)、「供給が安定していない」が10者(6%)、「必要な含水率のものが入手しにくい」が5者(3%)、「材面の見栄えが良くない」が4者(3%)、「施工がしにくい」が3者(2%)、「品質(反り・ひねり)のばらつきが多い」、「施主への印象が良くない」及び「その他」が各1者(1%)の順であった。なお、「その他」1者は、「特になし」であった。

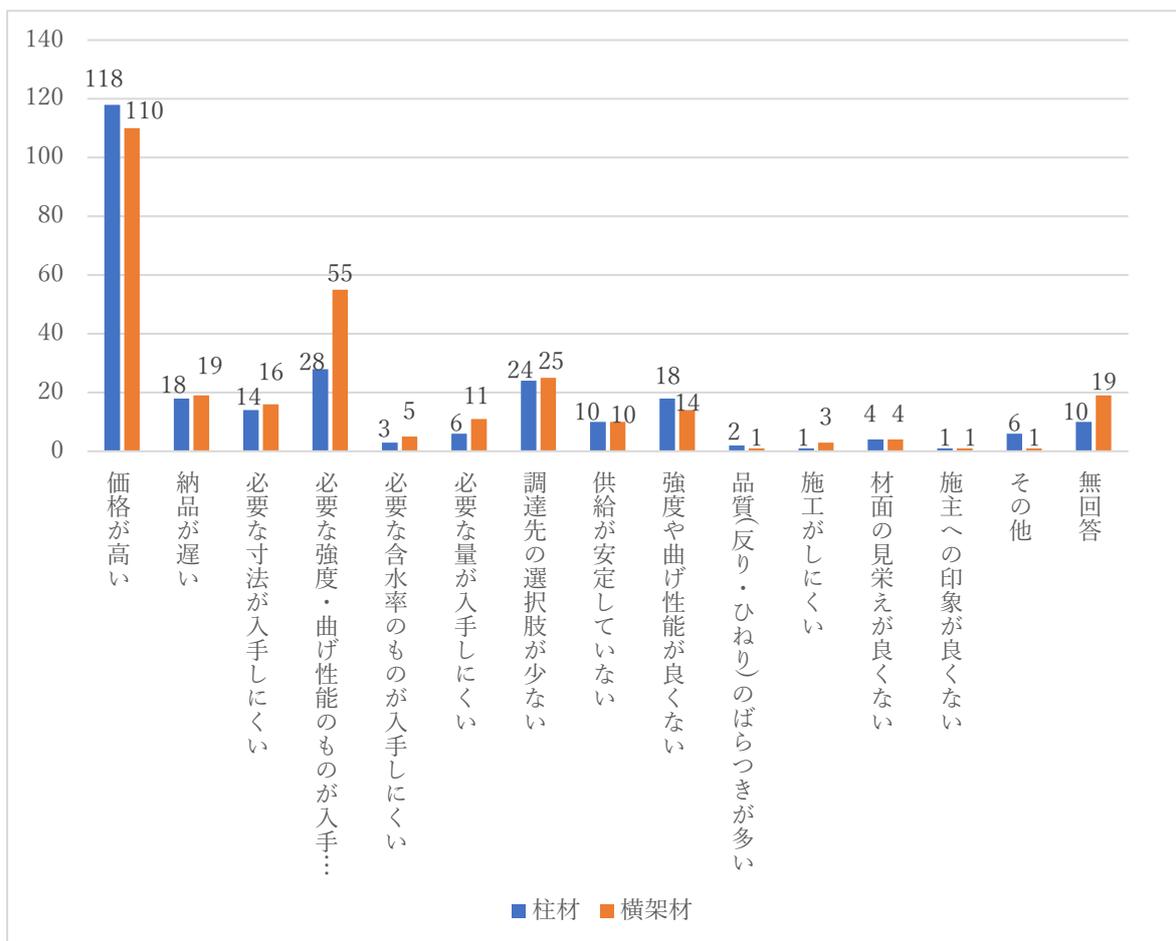


図 4-16 国産材製材(JAS 材・乾燥材)の施工上におけるデメリット

(4) 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った建築をしたいか。

各部材における補助事業が無くても今回使用した国産材を使った建築をしたいと思うかどうかについては、図 4-17 及び図 4-18 のとおりであった。

柱材については、「はい」が 89 者 (56%) で最も多く、続いて「どちらでもない」が 57 者 (36%)、「無回答」が 8 者 (5%)、「いいえ」が 6 者 (4%) の順であった。

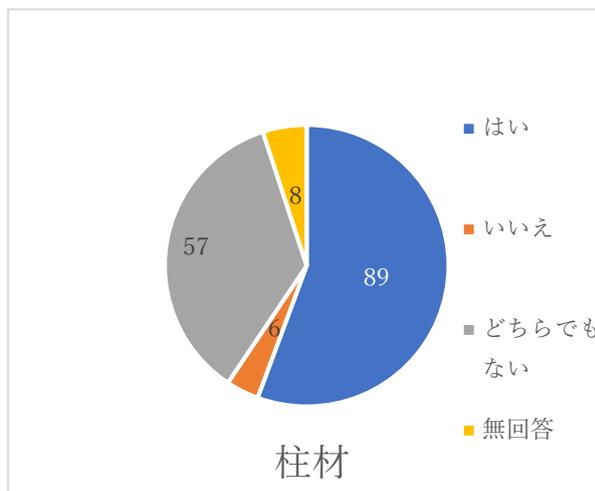


図 4-17 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った建築をしたいか(柱材)

また、横架材については、「はい」が 77 者 (48%) で最も多く、続いて「どちらでもない」が 59 者 (37%)、「無回答」が 15 者 (9%)、「いいえ」が 9 者 (6%) の順であった。

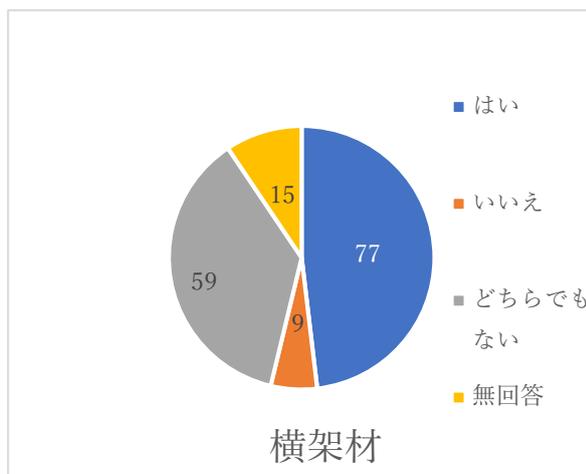


図 4-18 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った建築をしたいか(横架材)

(5) (4)の回答の理由。【自由記載】

(4)の回答の理由は、以下のとおりであった。

※【自由記載】の回答文の最後の数字は同旨の回答数である。以下、本報告書内で共通。

ア 柱材

ア) (4)の回答が「はい」の理由 (74 者から回答あり)

- ・手入れされる山が増え、土砂崩れなどの災害を防ぐことにつながる。山の栄養分が川から海に運ばれ、海産物にも好影響を与える。さらに海外からの輸送にかかる燃料が必要ないため、CO2削減になり、サステナブルな社会にも貢献できる 3
- ・構造図である程度の縛りがある 2
- ・価格が安い。供給が安定している。品質が良い 2
- ・地産地消を推奨している 2
- ・長年地域材(しずおか優良木材)を使用しているので、これからも継続して使いたい 2
- ・「柱には国産ヒノキを標準仕様として使用している」点が施主に対する印象が良く、当社の営業的要素にもなっている 2
- ・木の見える化で、国産材の良さを、家族への良い影響力について伝えたい
- ・地産地消の家づくりをしている
- ・地元で活かされている企業である
- ・できるだけ地元企業に貢献し、また将来のために山の活性化にもつながると考えている
- ・入手しやすく施工しやすい
- ・いつも同じように施工している
- ・県産材(国産材)のクライアントへの印象はもちろん、産業や森林環境の安定は重要であると考える
- ・品質が良い
- ・常に国産材で建てたいと考えている
- ・標準に使用している
- ・施工精度が良い
- ・なるべく国産の物を消費したい。
- ・世界情勢を鑑みて
- ・安心して使用できる
- ・和歌山の杉材は節が少なくきれいなので、予算がゆるせば使っていきたい
- ・弊社施工の新築物件では、同じような材料を使っている
- ・日本育ちの木を使った製材は、日本の住宅に良い
- ・施主に、国産材を採用するメリットを伝えると喜ばれる
- ・通常利用している

- ・JAS 材だと安心感がある。施主への印象が良い
- ・必要な強度や曲げ性能が確保できており、安全性が高い
- ・国産材の良さを実感したため
- ・供給が安定している
- ・国産材の良さを実感した
- ・全体的にメリットのほうが多いので、これからも採用していきたい
- ・品質の安定
- ・品質が良く施主への印象が良い
- ・以前より使用している
- ・地元の材料を使いこだわった木造の建物を作っていきたい。地元における経済循環、運搬における CO2 削減など両面から世の中に訴えていきたい
- ・会社として県産材を使用していく方針
- ・品質面や構造面で安心な材料を使用することで、ユーザーにも納得していただける建物を提供できる
- ・環境保全の観点から
- ・国内、長野県内の豊富な森林資源を活用する事は、林業の循環、職人技術の承継、経済を回していくためにも重要
- ・安定した強度が確保できる為、ユーザー様にも納得してもらえる
- ・補助金利用目的として使用することがある。製材所が近く優良木材を安定して供給できる
- ・施主への印象が良くなる
- ・今までも県産材・地産材活用をしているため、今後も環境循環のために行いたい
- ・今までも使用している
- ・地産地消、環境にも住環境にも良い
- ・地産地消し、日本の経済に貢献しつつ人の住む家を建てるのが一番理にかなっており職人不足に貢献できる
- ・必要なことだという認識で、ずっと使っている
- ・「同じ地域の気候・風土で育った木材を使用して家を建てる」という弊社の理念
- ・大径材が増加しているので、次世代のための伐採・植林が必要
- ・環境貢献するために国産材利用をすすめると、消費者のイメージが良くなる
- ・国産材のメリットを生かし、性能の高い建築をしたい
- ・国産材製材を使用するメリットがデメリットを上回るため
- ・施主様の印象が良かった 3
- ・輸入より国産材調達の方が安定需給(価格、量)できるのなら極力増やしたい
- ・現状は木材費にメリットを感じている
- ・今までも使用していましたし請負契約段階からその商品で提案している

- ・ウッドショック時に国産材も調達が難しくなり、安定的に国産材を調達出来る状況を作りたいと思っている
- ・地産地消の家づくりを積極的に提案していきたい
- ・地産地消の家づくりを大切にしていきたい
- ・国産材だから。出来るだけ地産地消をして地域の活性化になればよい
- ・助成金を頼らず広く普及させるため。安定した供給体制と仕入れ価格の形成が必須
- ・供給が安定している。木材の地産地消で地域経済を循環させる為
- ・地産地消の観点や入手しやすさにおいて国産材を使うことが有利と考えている
- ・当社の標準仕様で使用している
- ・地場産材を調達、使用することで地域活性化につながるという想いから地場産材を使った建築をしたい。今回のように補助金があれば、国産材製材の使用量を増加させることができる2

イ) (4)の回答が「どちらでもない」の理由 (47 者から回答あり)

- ・価格が高いため 25
- ・適材適所、コストパフォーマンスの良い材を提供したい 2
- ・価格が安くなると使いやすい 2
- ・外国産、国産ともにメリットがあり、その特性を組み合わせる。補助事業なしでも使用した部材はあると思われるが、今回の補助事業により国産材の使用量は増加した 2
- ・JAS材か乾燥材の違いであって、部位による国産、外国産は変わらない 2
- ・JAS 材使用のリクエストが施主からあれば積極的に使用したい 2
- ・都度、集成材や輸入材との価格・品質の差を比較して決定する
- ・コストが安い方を採用したい
- ・価格メリットが出たら使用していきたい
- ・材種は任せている
- ・価格で費用を抑えられるなら使いたい
- ・値段と製品の精度等を比較して決める
- ・施主の印象が良くなかった
- ・国産材は金額や供給は安定しているが、輸入材に比べて金額が高い。できれば、積極的に国産材を使いたいです。家 1 棟で構造体は大部分を占めるので、原材料高騰の影響を受けている建築資材をそのまま施主に提供すると、金額的に建てられない(買えない)ことになるので、安価な製材を使う事になる。
- ・化粧材は国産材を使いたい。その他も国産材の利用を推進したいが、施主の状況により採用できないケースが多々ある
- ・価格が第一に選択されるので、価格が高くなるのであれば厳しい
- ・補助事業の受付時期と施工時期の調整が難しい
- ・地方の零細企業に、国産材以外との選択肢は厳しい

ウ)(4)の回答が「いいえ」の理由(6者から回答あり)

- ・弊社標準仕様で土台・柱・通し柱は国産材としている
- ・価格問題
- ・杉材の乾燥材は一般に高価格
- ・価格が高価なため
- ・今回、主に工程面で施主からお叱りをかなり頂き、メリットよりデメリットが大きいと感じている
- ・メリットよりもデメリットが多い。コストが上昇することが一番の要因

イ 横架材

ア)(4)の回答が「はい」の理由(58者から回答あり)

- ・施主への印象が良くなる3
- ・構造図である程度の縛りがある2
- ・国産材の良さを実感した2
- ・長年地域材(しずおか優良木材)を使用しているので、これからも継続して使いたい2
- ・国産材製材を使用するメリットがデメリットを上回る2
- ・木の見える化で、国産材の良さを家族への良い影響力について伝えたい
- ・地産地消の家づくりをしている
- ・入手しやすく施工しやすい
- ・いつも同じように施工している
- ・県産材(国産材)のクライアントへの印象はもちろん、産業や森林環境の安定は重要である
- ・常に国産材で建てたいと考えている
- ・標準仕様している
- ・施工精度が良い
- ・国産の物を消費したい
- ・世界情勢を鑑みて
- ・安心感がある
- ・和歌山の杉材は節が少なくきれいなので、予算がゆるせば使っていきたい
- ・弊社施工の新築物件では、同じような材料を使っている
- ・施主に採用するメリットを伝えると喜ばれる
- ・通常利用している
- ・JAS材だと安心化がある。施主への印象が良い
- ・必要な強度や曲げ性能が確保できており、安全性が高い
- ・供給が安定している
- ・今までの仕様が国産材の採用率が多いので、これからも国産材を採用していきたい
- ・品質の安定
- ・品質が良く施主の印象が良い

- ・以前より使用している
- ・会社として県産材を使用していく方針
- ・品質面や構造面に対して安心な材料を使用することで、ユーザーにも納得していただける建物をご提供できる
- ・長野県内の豊富な森林資源を活用する事は、林業の循環、職人技術の承継、経済を回していく上でも重要
- ・今までも県産材・地産材活用はしてきており、今後も環境循環のために使用したい
- ・今までも使用している
- ・地産地消、環境にも住環境にも良い
- ・地産地消し、日本の経済に貢献しつつ家を建てるのが一番理にかなっており、職人不足に貢献できる
- ・必要なことという認識で、ずっと使っている
- ・環境問題を考えると利用は必須
- ・これからの時代の必須事項
- ・国産材のメリットを生かし、性能の高い建築をしたい
- ・国内林業の安定化の一助として現状は木材費にメリットを感じている
- ・横架材の国産材は一部の梁をハイブリットビームで利用している程度。以前はハイブリットビームを基本にしていたが、ウッドショックで基本設定を安価な米松 KD 材に変更
- ・ウッドショック時に米松の調達に難しくなり、急な国産材の変更も容易では無かった。安定的に国産材を調達出来る状況を作りたいと思っている
- ・地産地消の家づくりを積極的に提案していきたい
- ・地産地消の家づくりを大切にしていきたいと考えている
- ・出来るだけ地産地消をして地域の活性化になればよい
- ・助成金を頼らず広く普及させるため、安定した供給体制と仕入れ価格の形成が必須と考える
- ・地方の零細企業に、国産材以外との選択肢は厳しい
- ・供給が安定している。木材の地産地消で地域経済を循環させる
- ・地産地消の観点や入手しやすさにおいて国産材を使うことが有利と考えている
- ・当社の標準仕様で使用している
- ・地場産材を調達、使用することで地域活性化につながるという想いで、地場産材を使った建築をしたい。ただし今回のように補助金があれば国産材製材の使用量を増加させることができる 2

イ) (4)の回答が「どちらでもない」の理由 (46 者から回答あり)

- ・価格が安く、必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすければ使用したい 24
- ・適材適所、コストパフォーマンスの良い材を提供したい 2
- ・外国産、国産ともにメリットがあり、その特性を組み合わせるため。補助事業なしでも使用した部材はあると思われるが、今回の補助事業により国産材の使用量は増加した 2

- ・横架材において米松だと強度が取れるため 2
- ・JAS材か乾燥材の違いであっても、部位による国産、外国産は変わらなかった 2
- ・価格が安くなると使いやすい。性能が合うものが入手しやすければ使いたい
- ・価格が安くなると使いやすい。性能が確保できれば使いたい
- ・価格メリットや、必要強度の曲げ性能のものが入手しやすければ使用したい
- ・都度、集成材や輸入材との価格・品質の差を比較して決定する
- ・予算を考えなくてはいけないので、もう少し価格が安くなれば使いたい
- ・材種は任せている
- ・価格で費用を抑えられるなら使いたい
- ・値段と強度等比較して決めたい
- ・施主の印象が良くなかった。
- ・弊社は、全棟構造計算をしており、横架材も構造計算し、必要な箇所に必要なものを入れていく
- ・化粧材として使う箇所については、国産材を使いたい。その他の材も国産材の利用を推進したいが、施主の状況を踏まえると採用できないケースも多々ある
- ・補助事業の受付時期と施工時期の調整が難しい
- ・施主から要望があれば、積極的に使っていきたい

ウ) (4)の回答が「いいえ」の理由 (8者から回答あり)

- ・価格が高く、必要な強度・曲げ性能のものが入手しにくい 3
- ・価格問題
- ・杉材の乾燥材は一般に高価格
- ・価格が高価
- ・今回、主に工程面で施主からお叱りをかなり頂き、メリットよりデメリットが大きいと感じている
- ・メリットよりもデメリットが多いため。コストが上昇することが一番の要因

3. 国産材(製材だけでなく、集成材等も含める。)の利用に関する取組について (施工利用):回答数 160 者

(1) 令和3年の木材不足・価格高騰（いわゆるウッドショック）や昨年のロシアによるウクライナ侵攻の影響など、昨今の海外情勢を踏まえた国産材（製材だけでなく、集成材等も含めて）の使用状況

令和3年の木材不足・価格高騰や昨年のロシアによるウクライナ侵攻の影響など、昨今の海外情勢を踏まえた国産材の使用状況については、次頁の図 4-19 のとおりであった。

「輸入材から国産材へ転換し、国産材の使用量が増えた」が 49 者(30%)で最も多く、続いて「ウッドショック以前と比べて、国産材の使用状況は変わらない(主に輸入材を使用している)」が 45 者(28%)、「ウッドショック以前と比べて、国産材の使用状況は変わらない(主に国産材を使用している)」が 36 者(23%)、「一時的に輸入材から国産材へ転換し、国産材の使用量が一時期増えたが、今は輸入材製品に戻っている」が 28 者(18%)、「ウッドショック以前と比べて、国産材の使用量が減った」が2者(1%)の順であった。

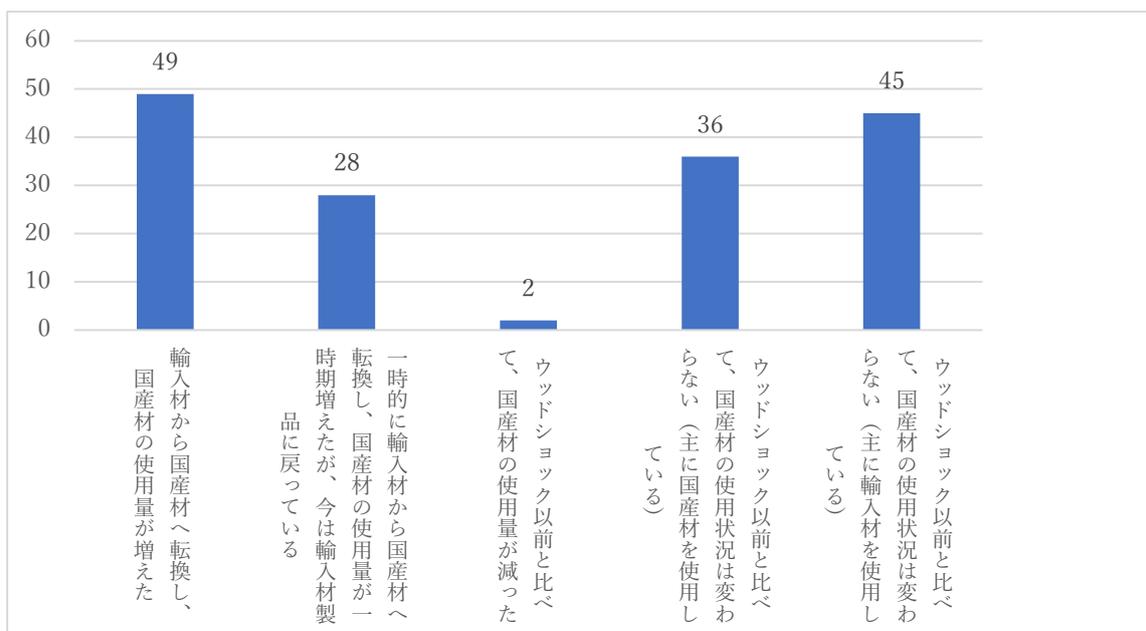


図 4-19 昨今の海外情勢を踏まえた国産材の使用状況

(2) 自社が施工する木造住宅において、主にどのような方法で木材製品の種類(製品・樹種)を選定しているか

自社が施工する木造住宅において、主にどのような方法で木材製品の種類を選定しているかについては、次頁の図 4-20 のとおりであった。

「自社が独自に選定する(自社から施主等に提案した場合も含む)」が 82 者(51%)で最も多く、続いて「プレカット会社から提案がある」が 41 者(26%)、「建材店・材木店から提案がある」が 20 者(13%)、「設計者から指定される」が9者(6%)、「樹種の選定をしない(プレカット会社や材木店等に任せる)」が5者(3%)、「その他」が3者(2%)の順であった。

なお、「その他」は、3者とも「自社での設計施工物件が大半であり、自社で選定している」であった。

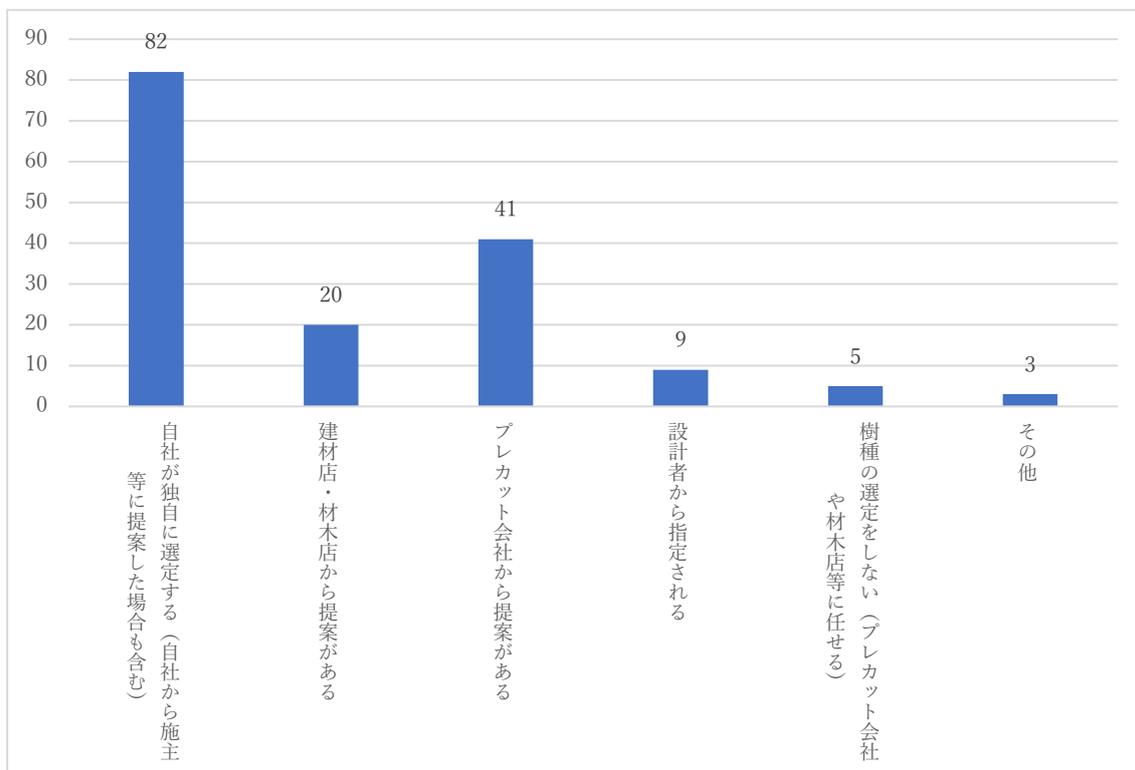


図 4-20 自社が施工する木造住宅における木材製品の種類の選定方法

(3) どのような課題が解決されれば、住宅における国産材の利用が増えると思うか。

【自由記載】

どのような課題が解決されれば、住宅における国産材の利用が増えると思うかについては、以下のとおりであった。

- ・価格が高いイメージを取り払い、JAS や含水率、ヤング率を表示し、品質を担保することと必要なときに必要な量を確保できるようにすれば利用が増える 30
- ・価格的なものが抑えられれば国産材の利用は増える 17
- ・強度と価格面 4
- ・現在当社では土台と柱には国産材を使用することが多いが、横架材にはベイマツやオウシュウアカマツなどの輸入材が使用されることが大半である。前述のハイブリッド集成材のように、国産材を使用した横架材部材がより一般的になり、安定した価格で供給されれば、国産材の利用率も上がっていく可能性がある 3

- ・スギやヒノキ等の国産材を横架材に選択・使用する可能性の増強。合板等の JAS 製品において「国産材」「輸入材」の区別を明記し、木材利用事業者における国産材の利用意識を高めさせる取組の実施 3
- ・JAS 取得のし易さと JAS の維持管理費を安く(JAS 認定工場を増やす) 2
- ・価格が手ごろになれば使いやすい。品質の担保と確保が出来れば使いたい 2
- ・価格と求められる強度。柱は E95-F315 の集成材のように構造強度が指定される場合が多い 2
- ・国産材の単価が下がり強度が取れるのであれば増える 2
- ・価格の値下げ、安定した供給 2
- ・国産材の価値が明確にお客様へ伝わり、価格だけではない魅力を提供すれば、国産材利用が増大 2
- ・国産材の供給・品質の安定及び低コストの実現。国内林業の発展。中小企業向けの簡素化した手続きの補助金等 2
- ・価格を下げるため、国産材を使うメリットを建築業者に伝え、国産材を使う業者を増やす
- ・国の補助事業も多様化させる
- ・外材との価格や品質差が無くなれば、選択するお客様が増えるのではないか
- ・梁・桁使用時に強度が外材より劣るので、サイズアップしても価格が安いこと
- ・国産材に特化した補助金など受けやすい支援策があれば良い
- ・安定した品質・性能の材木の供給
- ・補助金等の積極的活用を図るため国産材利用を推進しているが、国産材のコストが今より下がり、供給の安定性が向上すれば更に利用が増える
- ・品質価格のバランス(施主に対する直接的なメリット)
- ・品質と価格のバランスが輸入材より優れること(施主に対する直接的なメリットがあること)
- ・第一に価格である。木材の産地等を重要視される施主や、限られた予算をそこに割きたいと言う施主も正直稀であり、提案も難しい。施工する側としては、納期の速さと品質の安定があれば利用したい
- ・建築の提案において、産地や樹種にまで配慮される施主は稀である。納期の早さと手頃な価格、品質の安定があれば、施工者側の主導のもと利用は増える。このような補助金事業もわかりやすいメリットがあるため大変ありがたいが、申請に必要な膨大な写真撮影による現場負担が大きいため、もう少し現場作業員の安全確保や作業効率等の負担軽減に配慮したシステムを考えていただくとありがたい
- ・今以上の精度及び乾燥率(含水率)の安定
- ・現状も努力されているような補助金による価格の補填が、クライアントには最も分かりやすく利用へのアピールになる
- ・木造住宅において、木材が重要な物である事。また木材の品質の良さを理解してお客様へ説明すること。価格をもう少し安くしてもらえれば利用する物件も増える
- ・生産量の安定化とコストダウンができれば利用が増える
- ・内部割れの問題を解決し、金物工法に使える品質が保たれた国産材を増やす
- ・コストパフォーマンス
- ・輸入材を中心とした集成材の流通
- ・国産機械等級区分材の供給量の増加と、価格の減少(国産無等級材の価格に近くなるまで)

- ・為替や山火事、国際情勢による価格の不安定な状況が続くことも含め、国産材の扱いやすい価格帯の安定化
- ・低価格化(もう少し)
- ・供給量が増え、輸入材より安くなれば利用が増える
- ・価格メリットを出し、品質を担保、また供給を安定化できれば利用が増える
- ・輸入木材の値段が上がれば良い。わざわざ遠くから運んできた木材よりも地産地消の木材のほうが本来、価格は安いはず
- ・国産材の価格を下げる。流通量を増やす。輸入材の価格を上げる
- ・納期短縮と価格値下げ
- ・プレカット会社への PR
- ・入手のしやすさ
- ・品質と金額次第
- ・安定的な価格と供給が持続でき、安定的な材料強度が見込めれば解決できる
- ・安定供給
- ・コストを押さえれば増える
- ・魅力とコストパフォーマンスを高める
- ・輸入材より国産材の価格が抑えられれば利用が増える
- ・住宅に要求する構造強度(材種)を見直すべき
- ・補助金の拡充
- ・国産材の値段が下がるか国産材に関する補助金等があれば増える
- ・補助金の増加と申請手続きの簡略化
- ・外国産材に課税する。国産材利用(特に地産材)の補助金をもっと充実させる
- ・施主の理解
- ・一般の方には、値段が高い。ただ、輸入材の高騰、建材の値上げ巾に対し、国産の原木価格はコロナ前の水準に戻りつつある。価格の差が少ない今が国産材アピールのチャンス。地域の材を安定的に使用する事はあらゆる面でメリットがあり、その情報を SNS 等で上手くアピールする必要がある
- ・価格、納期の改善。逆に国産材の良さ(日本の風土で育った木はここが違う)の数値化や、比較したような専門的なエビデンスが打ち出せれば、少々高くても、もっとアピールしやすくなる
- ・価格が下がらないと難しい。外来材価格には勝てないのであれば、付加価値で訴える必要があるが、エンドユーザーに伝える事は難しい。小さな活動として、地域の工務店協力による地域材のブランド化、商品設定とストーリー等を作る
- ・安定供給と外材との金額差が同じかもう少し低くなれば検討できる。あとは施主側へエンカル意識を伝えることが重要
- ・製品の価格と構造躯体としての安定度、それに見た目の印象も必要
- ・手厚い補助制度があれば、国産材の利用が増える

- ・乾燥がしっかりしたものが出れば使っていきたい。乾太郎みたいにしかりと性能を打ち出してある木材だと使いやすい
- ・価格の安定化、必要とされる場面が多くなること(公共物件含め)
- ・価格の低下、安定供給
- ・納期と価格が改善される事
- ・購入する工務店が責任意識をもち、施主へ説明をし、利用してもらうようにすすめる
- ・景気回復
- ・輸入材との価格の競合に太刀打ちする必要は、必ずしも無い。国産材の構造材・造作材・内装材を、化粧材として見せることにより、快適な室内空間が得られるということを、より多くの人に認識してもらう。NHK 朝ドラに、林業～大工さん関連を題材にしてもらうとか
- ・強度計算・安定性・入手のしやすさ・PR環境と内装仕様における木質化のメリットをPR
- ・軸組工法の場合で有れば、金額面だけだと思う。枠組壁工法は、サイズにより、国産材が無いサイズがある。全サイズが有れば使用量は増えると思うが、コストも上がることが課題になる
- ・コスト、供給の安定性
- ・国産材を使用するメリットを知らない人が多い。広く周知することが解決につながる
- ・価格の下落と助成金の継続があれば、施主負担も少なく使いやすくなる
- ・今後も継続して助成金支援があれば、費用への課題が軽減される
- ・コストアップの課題があり、今後も継続して助成金支援があれば、この課題が軽減される
- ・価格と量的な安定
- ・国産材のメリットが広く知られていない。高価というイメージが強いままなのでは？
- ・見栄えの良い乾燥材をもっと増やす
- ・消費者への認知向上と施工者側の意識を変える
- ・コスト減と安定供給
- ・流通の安定と価格
- ・木材強度に対しての価格
- ・国産材の切り出しから加工(プレカット)まで一連の流れを整備し、安定的な材料の供給や強度が必要
- ・外国産材に比べ、価格が安く、安定的な品質及び仕入れが確保出来れば、利用は増える
- ・施主に国産材利用のメリットや重要性を理解してもらう。そのためのアピールや宣伝をわかりやすく、広く行いたい
- ・国産材利用のメリットや心地良さを、もっと施主に理解してもらう
- ・国産材のメリットを広く知って貰う事が大事
- ・補助事業拡大と、木材の省エネ性や健康面にメリットがあることを利用者に理解してもらえれば利用は増える
- ・森林の保全を目的とした林業を活性化させ、雇用と流通経路を拡大させる事が大前提。国産木材の供給体制の整備を図る事で安定した適正価格が市場を形成し、住宅や非住宅への利用促進に繋がる
- ・品質向上と多様化、コスト削減

- ・地域で国産材を謳う工務店が多いので、国産材の利用を盛り上げていく
- ・宮崎県では、国産材(スギ)の供給が安定しており国産材の利用については特にハードルは高くない。しかし、クリーンウッドの考え方を正しく守って材料を用意するのは不毛と考えており、不要なコストが大量にかかっている。助成金が出ないならば今回の製材の要件をクリアして建てることはない。
- ・国産材を使用することは入手が外国産材に比較して容易であり、納期短縮につながるが施主のメリットとなることが周知されることが国産材の利用促進につながる。
- ・コストが安く、構造等級の表示をする等 地域柄、国産材を使うのが当たり前のような風潮があり、地域イベントでも木工教室など国産材に触れる機会が多い。
- ・宮崎県では国産材のハードルは高くないと考える。県産材の助成金などがある場合があり、かつ面倒な手続きなど無ければ、今後も当たり前国産材を利用していく。
- ・採用しようとする工法が強度の高い輸入材がベースになっていると採用できないので、国産材をベースにした金物や工法の開発が進むこと。JAS 製材や乾燥材の品質表示が簡素化されること。

(4) 国産材の利用に関して、今後取り組みたいと考えていることがあるか。【自由記載】

国産材の利用に関して、今後取り組みたいと考えていることについては、以下のとおりであった。

- ・積極的に使用していく7
- ・静岡県産木材を使用する場面も幾らか存在する状況。現時点ではその利用率はそれ程多く無いが、今後は県産材の利用も増やすなどして、県産・国産の木材利用を進めていきたい4
- ・地産地消3
- ・千葉県産材を使用した住宅・店舗を今後取り組んでいきたい3
- ・国産材も使用している旨を、自社カタログに掲載する3
- ・エンドユーザーへの国産材品質をアピール。羽柄材仕入れにおける地元製材会社との連携強化2
- ・昨今の燃料の高騰により増大している輸送費を削減するため、国産材や地域材を積極的に活用し、地域産業の活性化につなげていく2
- ・造作材の活用がメイン2
- ・なるべく国産材を使用していきたい2
- ・可能な限り国産材を利用していけば日本での雇用創出などに貢献していけるので取り組んでいく2
- ・施主様の希望があれば使用したい2
- ・造作材は杉などの国産材の方がひねりやたわみが無く使いやすい為、施工精度を上げるためにも積極的に使っていく2
- ・国産材による大空間大開口を住宅建築に取り入れ拡大させる2
- ・静岡県内に本社を構える建設会社であるが、地域木材(静岡県産材)については現時点でそこまで多くの利用を行っていない状況であり、今後利用率を高めていく可能性も考えている2

- ・建築業や木材販売で、木の国産材の良さやメリットを伝えていく
- ・これまで以上に地域材を使用する
- ・現在もほぼ国産材を利用しているので、今後も使用したい
- ・内装材にも使いたい
- ・これからもお客様に、国産材を利用した建物(住宅に限らず)を積極的に提案していきたい
- ・造作材及び内装材の利用拡大
- ・クライアントへの提案やアピール
- ・床、壁、天井材や家具等の目に見える部分の材料として、仕上げ材に使っていく
- ・国産材(地域の県産材等)利用の住宅で、お客様へ品質と安全性の訴求を行う
- ・杉・桧ハイブリッド集成材を使ってみたい
- ・国産材の品質の良さをアピールしたい
- ・在来工法における国産材使用
- ・値段次第で使用したい
- ・梁・桁材の国産機械等級材の供給量が増加すれば、弊社標準仕様において、梁・桁も国産機械等級材に変更を検討
- ・利用したいが価格の面での懸念点あり
- ・今後は、山を守り、生産者を守り、住宅産業にかかわるすべての人が豊かになるため、積極的に国産材を活用していく
- ・国産材のブランド化をお願いしたい(施主に訴求できる様に)
- ・日本の気候風土に合っている事を施主にアピールしたい
- ・現在は特にないが、随時検討していきたい
- ・完成見学会だけでなく、構造見学会を行おうかと考えている
- ・国産材の良さは好印象なので、これからもお客様向けにアピールしていきたい
- ・国産材を積極的に利用する部分は今後も継続していきたい
- ・輸入材に比べ国産材は高価な傾向があるため、せめて輸入材と同額程度になるのであれば積極的に勧めていく
- ・国産材の良い所を広めたい
- ・気候風土適応型住宅
- ・無垢フローリングでの仕様を増やしたい
- ・国産材利用を通して、SDGsに関する活動をPRする
- ・化粧材の利用
- ・地元の木材の良さをPR
- ・お客様に国産材をアピールできたらと思う
- ・今後も国産材を使用していく
- ・補助事業の有効な活用
- ・1棟全て国産材を使ってみたい

- ・トラスなど
- ・内装材の使用
- ・新築住宅・リフォームにも信州認証製材を使用していく
- ・今後も補助金などの活用ができれば、積極的に利用していく
- ・新築・リフォームでも信州認証製材を利用していく
- ・素性の良い原木を、林業家から直接購入できるよう取り組みたい
- ・自社の HP、インスタグラムなどで国産材の木材製品のアピールを行う。ユーチューブショートや TikTok などのショート動画は、情報拡散に大変効果があるため取り入れたい
- ・JAS材は安定した強度と品質を兼ね備えているので、価格的なものを含めて積極的にとりいれていく
- ・元々国産材の使用を前面に出して営業活動しているが、これからも国産材の良さをアピールして、オール国産材の家を目指していく
- ・流通の川上から川下への流れをもう少し見える化したい。工務店の受注情報などを透明化して、地域における計画生産などが出来ると良い
- ・リフォームでも利用を常にしているが、内装材への活用を検討していく
- ・使用する部位を吟味して決めたい
- ・プレカット業者と相談して、印象度も良くなる取組をしたい
- ・現在も積極的に国産材を利用している。今後も、お客様に国産材の魅力を伝えながら、内外装の仕上げ材としての採用や国産材を利用した家具等の制作とご提案等を行っていく
- ・木の良さをお施主様にもう少し伝えていく
- ・会社フェアなどでの PR 活動
- ・流通の川上から川下への流れをもう少し見える化したい。工務店の受注情報などを透明化して、地域における計画生産などができるとよいと思う
- ・今まで通り積極的に使用していく
- ・内装材として見える部分にも積極的に採用したい
- ・今までと変わらず、国産材の利用をすすめていく
- ・施主への説明
- ・今後、必ず来るであろう公共施設統廃合の際、国産木材を使用したリノベーションを提案出来ればと考えている
- ・機械等級区分表示
- ・構造計算付建築
- ・できる限り国産材を使用したい。名刺も国産の間伐材を使用した名刺にしており、意識は高い方
- ・国産ヒノキのツーバイ材を使用して建築をしたい
- ・作り手としては積極的に国産材の利用を推進したいが、作り手の思いと施主の状況を踏まえた現実にはギャップが多々あるため、少しずつ国産材利用を推進していく
- ・引き続きプレカット会社と連携して、利用拡大に努めていく
- ・価格や量が安定すれば、県産木材や近隣地方の木材などを利用した住宅を建築したい

- ・プレカット会社と連携し、国産材の利用をさらに施主様へ訴求していく
- ・ヒノキ材を使用した物件の検討
- ・見栄えの良い乾燥材が今後増えれば、もっと目視できる箇所にも国産材を増やしていく
- ・国産材を利用した集成材使用、CLT の利用取組
- ・非住宅建築などを検討したい
- ・国内林業のため、使用したい
- ・アンテナを張って価格が合うものがあれば前向きに検討し採用していく
- ・四国四県の得意な加工材を使った国産材の家を提供できる取組
- ・国産材を内装材にも積極的に使用する事により、建物のイメージアップを図りたい
- ・これまで以上に国産材や県産材を利用した家づくりを進め、検討中の施主にも実際に良さを感じていただけるアピールをしていく
- ・実際の施工事例や見学会、HP などを利用して、国産材利用の良さをエンドユーザーに伝えていく。
現在は構造材をメインに国産材を利用しているが、仕上げ材までを含めてトータルで国産材利用率を上げていく
- ・何か活動することは考えていないが、出来る範囲で消費していく
- ・意匠性も踏まえて、木材の見える化を設計施工で取り組んでいく
- ・国産材を 100%使用した CLT ビルディングの建設を目標として取り組む。CLT ビルディング建設により、強度の確保は勿論のこと、温もりや安らぎを持たせてくれる木質本来の性能を一般社会へ広く浸透させ安定した循環型社会を目指す
- ・乾燥材の使用量を増やす
- ・枠組工法用製材の国産化
- ・コロナも落ち着いたので、プレカット工場や国産材を自社で育てる製材工場の見学ツアーを再開する
- ・施主が外装の仕上げに木材を要望されることがあるが、防火などについて正確な知識を持っている自信がないために採用に積極的ではない。多くの知識を身に着け、施主の要望に応えたいと考えているため、疑問を質問できる場に身を置いて研鑽を積みたい
- ・施主に対して、国産材を多く使用して住宅を建てている点を会社としてアピールしていく
- ・国産材を使用した CLT を利用して大規模住宅を作りたい
- ・このような補助金の情報をこまめにチェックし、お施主様へ情報を伝えられるようにしたい
- ・内装、外装部へのあらわしの施工などの要望があるにもかかわらず、金額や施工上の理由で断ることもあるため、もっと知識を付け、助成金を活用してお客様への期待に応えていきたい。賃貸住宅の管理、リフォームも多いため、画一的でない施工もどんどん検討していきたい

4. 主要構造部における国産材製材の使用状況及びメリット・デメリット(設計利用):回答数 25 者

(1) これまでの設計物件と比較して、申請物件における国産材製材(JAS材・乾燥材)の使用量の変化(材積)

各部材における、これまでの設計物件と比較して、申請物件における、国産材製材(JAS材・乾燥材)の使用量は変化したかについては、図 4-21 及び図 4-22 のとおりであった。

柱材については、「変わらない」が 17 者(68%)で最も多く、続いて「増加した」が6者(24%)、「減少した」が2者(8%)の順であった。

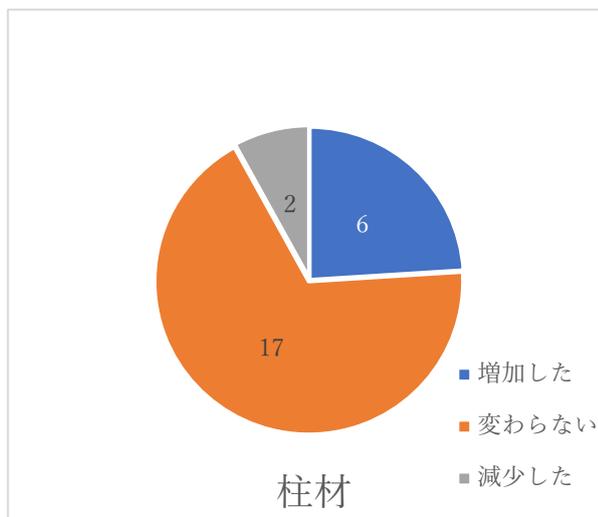


図 4-21 申請物件の国産材製材の使用量は変化したか(柱材)

横架材については、「変わらない」が 15 者(60%)で最も多く、続いて「増加した」が9者(36%)、「減少した」が1者(4%)の順であった。

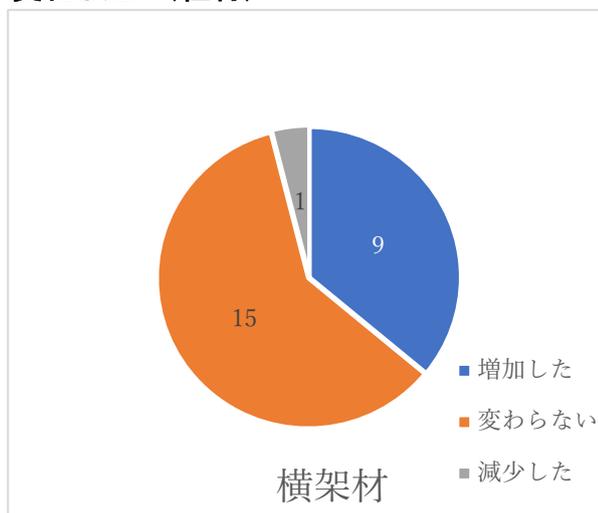


図 4-22 申請物件の国産材製材の使用量は変化したか(横架材)

(2) 国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のメリット【複数選択可】

各部材における、国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のメリットについては、図4-23のとおりであった。

柱材については、「施主への印象が良い」が23者(92%)で最も多く、続いて「必要な構造安全性を確保しやすい」が7者(28%)、「設計の自由度が高くなる」が3者(12%)、「設計に係る作業時間が減る」が1者(4%)の順であった。

また、横架材については、「施主への印象が良い」が22者(88%)で最も多く、続いて「必要な構造安全性を確保しやすい」が5者(20%)、「設計の自由度が高くなる」及び「設計に係る作業時間が減る」が各2者(8%)の順であった。

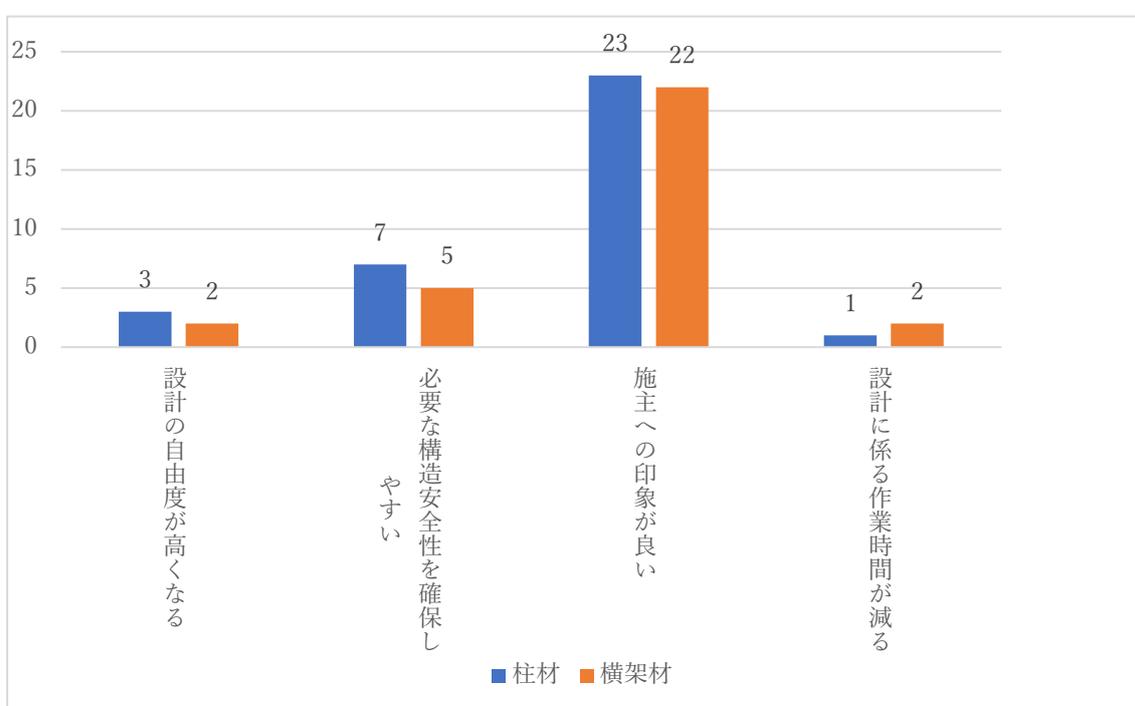


図 4-23 国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のメリット

(3) 国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のデメリット【複数選択可】

各部材における、国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のデメリットについては、図4-24のとおりであった。

柱材については、「必要な構造安全性を確保しづらい」が10者(40%)で最も多く、続いて「設計の自由度が下がる」が8者(32%)、「その他」が7者(28%)、「設計に係る作業時間が増える」が6者(25%)の順であった。なお、「その他」7者は、「特になし」4、「産地によるとは思うが、いくぶんか、材の品質に当たり外れがある」1、「価格が上がる」1、「コスト面」1であった。

また、横架材については、「必要な構造安全性を確保しづらい」が13者(52%)で最も多く、続いて「設計の自由度が下がる」が8者(32%)、「その他」が6者(24%)、「設計に係る作業時間が増える」が5者(20%)の順であった。なお、「その他」6者は、「特になし」2、「デメリットは値段が高いくらい。設計上のデメリットはない」1、「価格UP」1、「コスト面」1、「断面を大きくする必要がある」1であった。

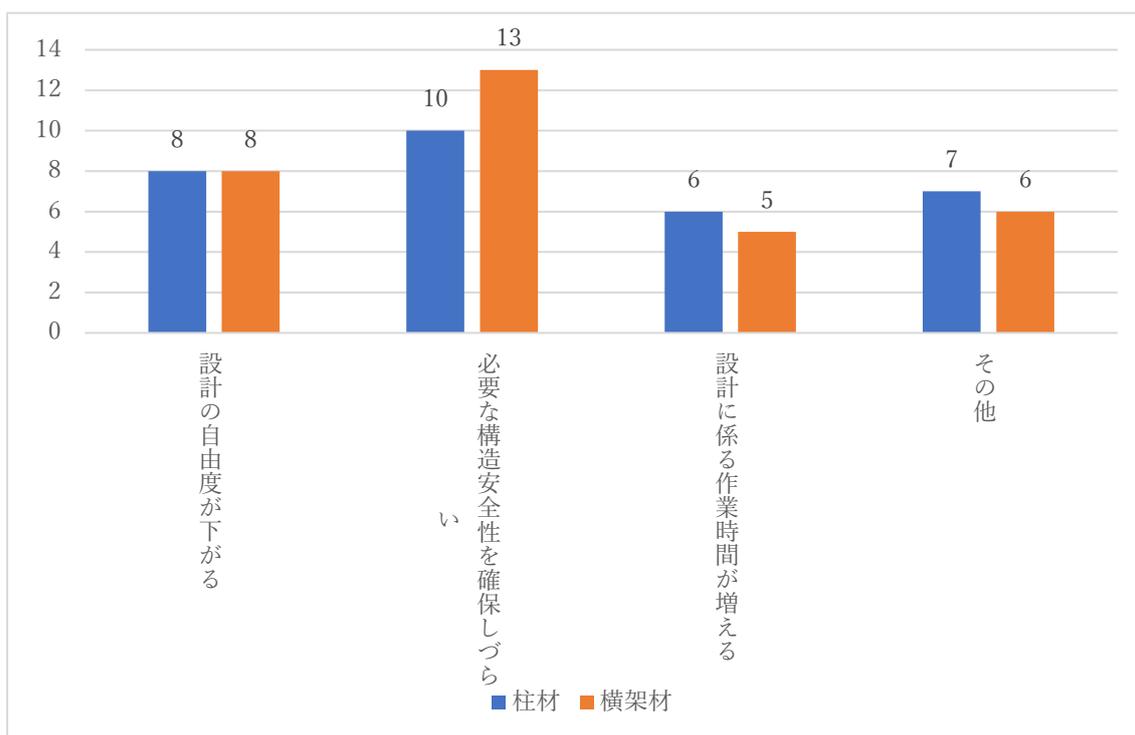


図4-24 国産材製材(JAS材・乾燥材)の設計上のデメリット

(4) 国産材製材を使用する設計の場合、集成材や輸入材製材を使用する場合と比べて、特に何か工夫していることはあるか。【複数選択可】

各部材における、国産材製材を使用する設計の場合、集成材や輸入材製材を使用する場合と比べて、特に何か工夫していることはあるかについては、図 4-25 及び図 4-26 のとおりであった。

柱材については、「特にない(又は比較したことがないのでわからない)」が 12 者(48%)で最も多く、続いて「断面を大きくする」が9者(36%)、「間隔を狭める」及び「直下率(2階柱の下に1階柱がある率)を意識する」が各7者(28%)の順であった。

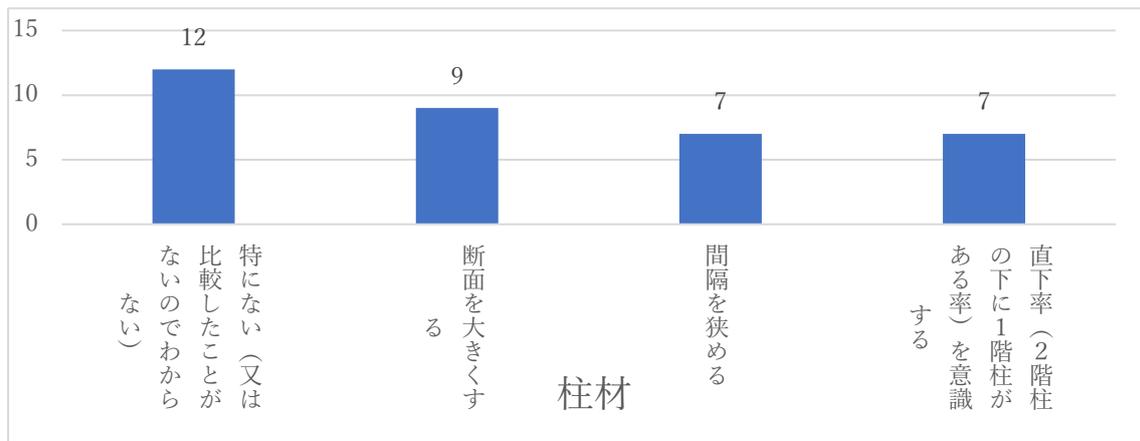


図 4-25 国産材製材を使用する設計で特に工夫している点(柱材)

また、横架材については、「断面を大きくする」が 15 者(60%)で最も多く、「特にない(又は比較したことがないのでわからない)」及び「スパンを短くする」が各9者(36%)の順であった。

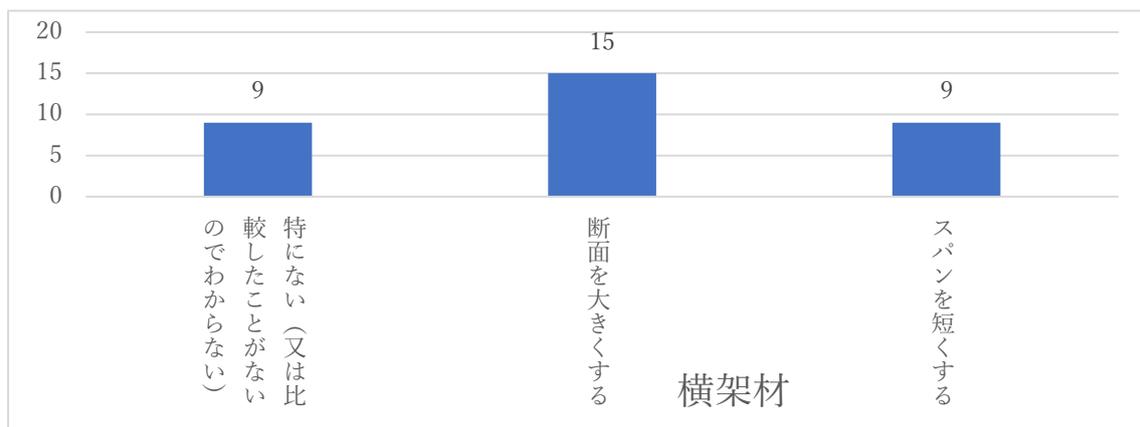


図 4-26 国産材製材を使用する設計で特に工夫している点(横架材)

(5) 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った設計をしたいか。

各部材における、補助事業が無くても今回使用した国産材を使った設計をしたいかについては、図 4-27 及び図 4-28 のとおりであった。

柱材については、「はい」が 20 者 (80%) で最も多く、続いて「どちらでもない」が 4 者 (16%)、「いいえ」が 1 者 (4%) の順であった。

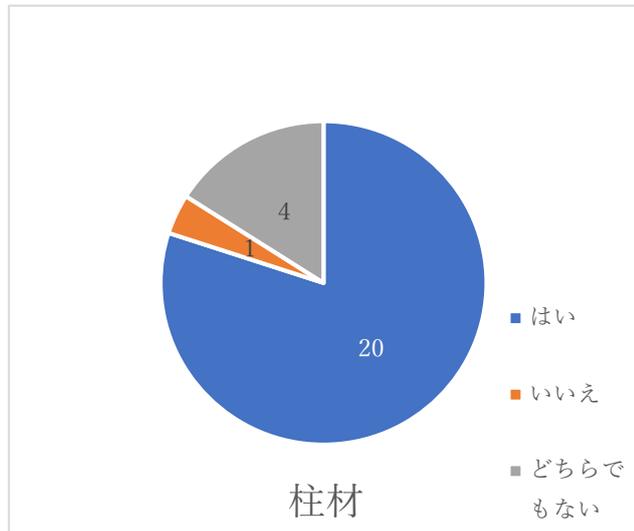


図 4-27 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った設計をしたいか(柱材)

横架材については、「はい」が 19 者 (76%) で最も多く、続いて「どちらでもない」が 5 者 (20%)、「いいえ」が 1 者 (4%) の順であった。

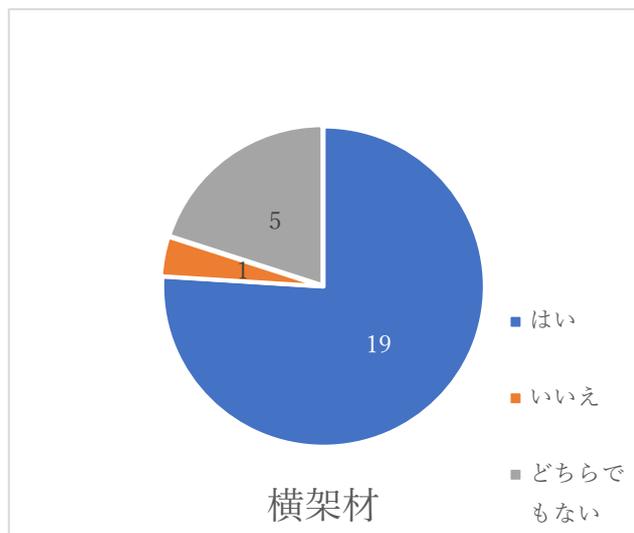


図 4-28 補助事業が無くても今回使用した国産材を使った設計をしたいか(横架材)

(6) (5)の回答の理由。【自由記載】

(5)の回答の理由は、以下のとおりであった。

ア 柱材

ア)(5)の回答が「はい」の理由(21者から回答あり)

- ・常に国産材で建てたいと考えている
- ・日本の林業や職人育成の為に使用していきたい
- ・今までも国産杉を採用してきたが、施主からの印象も良く、これからも採用していきたい
- ・地産材にこだわった設計にプライドを持っていて
- ・国産材の使用は普及活動にもつながってくると思う
- ・国産(県産材)の利用を促進している
- ・国内、長野県内の豊富な森林資源を活用する事は、あらゆる面でメリットがある
- ・地産地消を目的のひとつとしている
- ・お客様の良い印象がアップする
- ・地域の材料を活用することで、施主側にも関心を持ってもらえる
- ・国内消費するもので、可能なものは国内生産のものを使用することが自然であり、住む人にも、その良さを知って貰いたい
- ・必要なことだという認識で、ずっと使っている
- ・消費者も環境貢献することに関心を持っている
- ・環境を意識して
- ・施主の印象が良かった
- ・身近にある材を使わない理由はない
- ・地産地消の家づくりを大切にしていきたい
- ・国産材への信頼がある
- ・国産材利用を成さなければ日本の林業が絶えてしまう
- ・循環型社会を目指す上で、利用促進は必須事項
- ・当社標準仕様

イ)(5)の回答が「どちらでもない」の理由(4者から回答あり)

- ・適材適所、コストパフォーマンスの良い材を提供したい
- ・金額が上がってしまう
- ・作り手として国産材の利用を推進したい想いと、施主の状況を踏まえた現実との間でギャップが生じるケースが多々ある

ウ) (5)の回答が「いいえ」の理由 (1者から回答あり)

- ・お客様に対する印象しかないので、輸入材にし、浮いた金額で別の提案をしている

イ 横架材

ア) (5)の回答が「はい」の理由 (17者から回答あり)

- ・常に国産材で建てたいと考えている
- ・日本の林業や職人育成の為にも使用していきたい
- ・国産材の使用は普及活動にもつながってくる
- ・国産(県産材)の利用を促進している
- ・国内、長野県内の豊富な森林資源を活用する事は、あらゆる面でメリットがある
- ・地産地消をひとつの目的としている
- ・見た目が良くなる感じがする
- ・グリーン化事業などで他補助金を含め、県産材を活用してきた。今後も活用したい
- ・国内消費するもので、可能なものは国内生産のものを使用することが自然であり、住む人にも、その良さを知って貰いたいから必要なことだという認識で、ずっと使っている
- ・環境を意識している会社だということをPRしたい
- ・環境を配慮して
- ・施主の印象が良かった
- ・身近にある材を使わない理由はない
- ・地産地消の家づくりを大切にしていきたい
- ・国産材への信頼がある
- ・助成金を頼らず広く普及させるため、安定した供給体制と仕入れ価格の形成が必須
- ・当社標準仕様になっている

イ) (5)の回答が「どちらでもない」の理由 (5者から回答あり)

- ・適材適所、コストパフォーマンスの良い材を提供したい
- ・価格が安く、必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすければ使用したい
- ・横架材は曲げ強度が高い米松に依存中。物件によっては国産材の杉、ヒノキ等を採用していく
- ・国産材を積極的に使いたいという作り手の想いと、施主の状況も踏まえた現実にギャップが出る場合が多々出てくる

ウ) (5)の回答が「いいえ」の理由 (1者から回答あり)

- ・お客様に対する印象しかないので輸入材にし、浮いた金額で別の提案をしている

5. 今回の申請物件以外の国産材(製材だけでなく、集成材等も含める。)の利用に関する取組について(設計利用):回答数 25 者

(1) 申請者が取り組む本事業以外の木造住宅において、主に誰が木材製品の種類(製品・樹種)を選択しているか。

申請者が取り組む本事業以外の木造住宅において、主に誰が木材製品の種類(製品・樹種)を選択しているかについては、図 4-29 のとおりであった。

「設計者が施主と相談して決める」が 17 者(68%)で最も多く、「樹種の選定をしない(施工者、プレカット会社や材木店等に任せる)」が 5 者(20%)、「その他」が 3 者(12%)の順であった。なお、「その他」3 者は、「施工・設計者が判断」1、「建築業者の推薦」1、「設計者が決める」1であった。

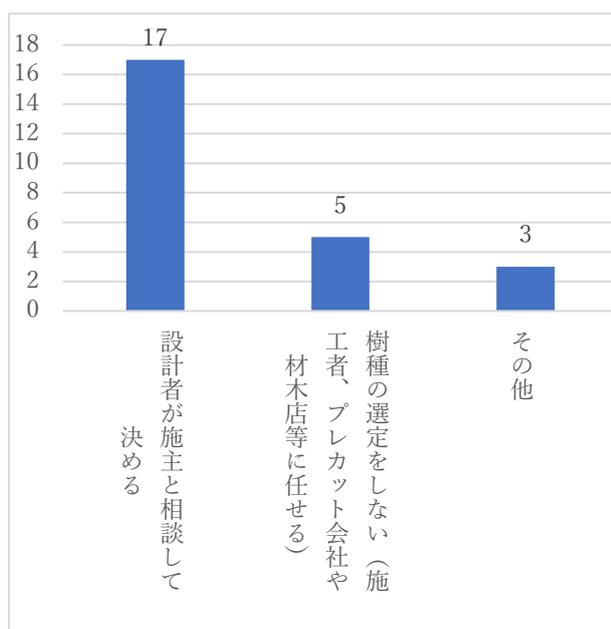


図 4-29 本事業以外の木造住宅において、主に誰が木材製品の種類を選択しているか

(2) 施主に対して国産材の利用を提案しているか。

施主に対して国産材の利用を提案しているかについては、次頁の図 4-30 のとおりであった。

「はい」が21者(84%)、「いいえ」が4者(16%)であった。

なお、「はい」を選択した理由は、以下のとおりであった。

- ・適材適所、コスパの良い材を提供したい
- ・当社が国産材で建てたいと考えている
- ・地産地消を施主には勧めている
- ・輸入材ばかりに頼れない
- ・環境面で国産材を使う意義を理解してもらう
- ・県内の森林資源を有効活用することのメリットが大きい
- ・地域の気候に合った木材を使用したい
- ・集成材より無垢の木材の方が健康に良い
- ・地産材が地元で製材できる環境にある
- ・国産材の家に住むことの良さを知って貰いたい
- ・国産材を利用することは必要と認識している
- ・伐採期にある
- ・国産材は環境に貢献していることを理解してもらいたい
- ・SDGs 実現への寄与、顧客満足度の向上のため
- ・県産材を薦めており、国産材を利用する事で山の循環を促し、山や環境を守ることに繋がる事を説明している
- ・地産地消の家づくりを大切にしていきたいと考えている
- ・補助制度や信頼感がある
- ・開放的な大空間が形成できることと、他では実現しにくい高層建築を望める利点がある
- ・会社標準仕様になっている為提案しやすい

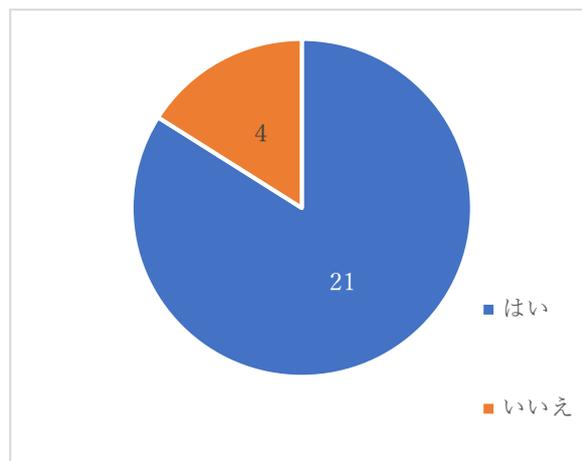


図 4-30 施主に対して国産材の利用を提案しているか

また、「いいえ」を選択した理由は、以下のとおりであった。

- ・価格が上がってしまう
- ・輸入材にし、浮いた金額で別の提案をしている
- ・価格面でまだ高い
- ・化粧材として見せる場合には提案する場合があるが、現状は積極的に提案していない

(3) 令和3年の木材不足・価格高騰(いわゆるウッドショック)や昨年のロシアによるウクライナ侵攻の影響など、昨今の海外情勢の影響を経て、国産材の使用を前提とした設計は増えたか。

令和3年の木材不足・価格高騰や昨年のロシアによるウクライナ侵攻の影響など、昨今の海外情勢の影響を経て、国産材の使用を前提とした設計は増えたかについては、図 4-31 のとおりであった。

「はい」が 15 者(60%)、「どちらでもない」が7者(28%)、「いいえ」が3者(12%)であった。

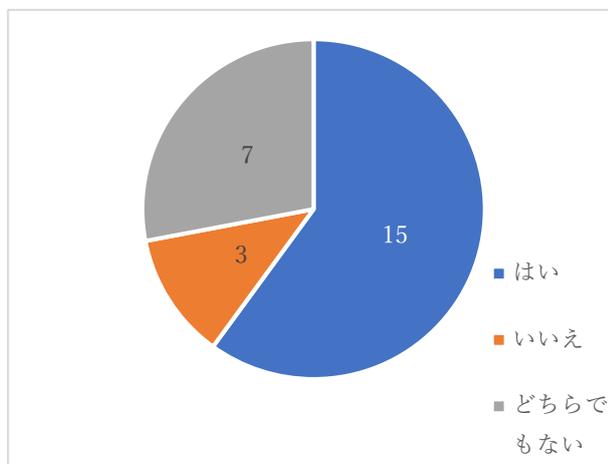


図 4-31 令和3年の木材不足・価格高騰や昨今の海外情勢の影響を経て、国産材の使用を前提とした設計は増えたか

(4) どのような課題が解決されれば、住宅における国産材の利用が増えると思うか。

【自由記載】

どのような課題が解決されれば、住宅における国産材の利用が増えると思うかについては、以下のとおりであった。

- ・品質と価格のバランス(施主への直接的なメリット)
- ・性能と価格のバランス(施主にとっての直接的なメリット)
- ・内部割れの問題を解決し、金物工法に使える品質が保たれた国産材を増やす
- ・見えない構造まで国産材にこだわる人は少なく、価格が輸入材と同等であれば利用が増える
- ・金額が抑えられれば、使用する機会が増える
- ・輸入木材の値段を、国産材と同等の価格に引き上げる
- ・輸入に頼らない体制に日本全体がなれば、利用が増える
- ・外国産材に課税することと、国産材(特に地産材)利用に対する補助金を充実させる
- ・価格面を抑え、強度等の確保ができれば利用が増える
- ・安定した供給
- ・国産原木価格はコロナ前の水準にほぼ戻りつつあり、上手く製品化出来れば価格の問題は小さくなるのではないかと。地域の材を使用した家造りは大変意義があり、持続可能な社会に向けて必要不可欠な取組である。多くの世代に、地域材活用の意義の情報を SNS、インターネットなどで発信していく必要がある

- ・金額
- ・乾燥がしっかりされていれば国産の無垢の方が良い
- ・海外製材品よりもメリットとされる部分が大きく取り上げること
- ・家を建てる人に周知できるよう、設計者の意識を高めるために行政が動けばよい
- ・国需をふやすこと
- ・構造表示
- ・JAS 取得のハードルを下げる
- ・コスト面、供給の安定
- ・外国産材に比べて価格が安くなるタイミングで供給しやすくすればよい。天然乾燥を薦めたいが、工期や資金面に支障が出ています。資金面で、施主か事業者に対しての支援があると良い
- ・国産材利用のメリットや心地良さをもっとエンドユーザー（施主）に理解してもらう
- ・コストが下がると増える
- ・森林の保全を目的とした林業を活性化させ、雇用と流通経路を拡大させる事が大前提。国産材の供給体制の整備を図る事で安定した適正価格が市場を形成し、住宅また非住宅への利用促進に繋がる
- ・コストが安く、構造等級をする等

(5) 国産材の利用に関して、今後取り組みたいと考えていることがあるか。【自由記載】

国産材の利用に関して、今後取り組みたいと考えていることについては、以下のとおりであった。

- ・造作材利用をメインとする
- ・杉・桧ハイブリッド集成材を使ってみたい
- ・内装にも積極的に構造材を見えるように設計し、施主の理解を得られるよう見学会を増やしたい
- ・今後も国産材採用部分は継続して、そうでない部分も国産材を採用するようにしたい
- ・トラスなど
- ・今後も補助金などの活用ができれば積極的に利用していきたい
- ・住宅以外の建物でも、国産材の利用を進めたい
- ・素性の良い原木を林業家から直接仕入れる仕組みを作りたい。自社 HP やショート動画などで国産、県産材を活用した家造りをアピールしたい
- ・公共物件や集会場などへの積極的利用
- ・国産材を表面に出して見せていきたい
- ・グリーン化事業も含めて、地域で仕事を回していけるようにしたい
- ・一人一人に丁寧に周知し使ってもらえるようお知らせしていきたい
- ・ていねいに説明し使用を推進する
- ・構造計算書付住宅

- ・非住宅
- ・無垢材を化粧として見せていく住宅造りを積極的に進めていきたい。施主の意向により国産材利用を推進していきたい
- ・補助金制度を利用し、国産材供給率を高めていきたい
- ・構造材だけでなく、仕上げ材も含めたトータルでの国産材利用率を上げてエンドユーザーにアピールしていきたい
- ・CLT を使っていきたい
- ・国産材を 100%使用した CLT ビルディングの建設を目標にしている。CLT ビルディング建設により、強度の確保は勿論のこと、温もりや安らぎを持たせてくれる木質本来の性能を、一般社会へ広く浸透させ、安定した循環型社会を目指したい
- ・国産材を使用した CLT を利用して、大規模住宅を作りたい
- ・特になし

4-4 CLT に関する回答

1. CLT の調達や規格等について（施工利用）

構造の工法(設計ルート)	CLT LC-CORE 構法 工法(設計ルート:)		
構造別階数(内訳)	2 階(1 階 LC-CORE 構法工法+ 2 階 LC-CORE 構法工法)		
竣工日(又は竣工予定日)	令和 年 月 日竣工(令和 6 年 4 月竣工予定)		
申請者がこれまでに建築した CLT の棟数	当該物件を含め 1 棟		
CLT の構造躯体の建方に要した作業者の人工数と日数(基礎施工日数は除く)	4 人工(人・日) 2 日間		
CLT の施工に掛かるクレーン等機械の大きさ別の台数	25 t×30 m 1 台 t× m 台		
輸送に要したトラックの種類と延べ台数	10 t 車 3 台 4 t 車 2 台		
使用した CLT の製造工場名	M 社	(所在地市町村名)	M 市
使用した CLT のプレカット工場名	M 社	(所在地市町村名)	M 市
代表的な接合金具の製造工場	M 社	(所在地市町村名)	M 市
CLT の納品に要した期間 発注先に○	注文から納入まで約 3 週間 発注先: CLT 製造工場、プレカット工場、(それ以外)		

接合金物の納品に要した期間 (代表的なもの)	既製品の場合：約 2 週間 特注品の場合：約 3 週間				
建築物のモジュールに○	910 mm、1,000 mm、(それ以外)				
ラミナの地域材の指定に○	指定なし、指定有り(地域：)				
使用した CLT の規格・数量等 ※単価は、規格別に現地着価格(CLT+プレカット加工費+運搬費)とする。なお、円/枚又は円/m ² のどちらかとする。	部材名	単価(円/枚)※	樹種	強度等級/構成	代表的な部材寸法と枚数 厚さ×幅×長さ×枚数
	屋根				
	横架材				
	壁材	197,013	スギ、ヒノキ		120×1265×2830
	床材	177,167	スギ、ヒノキ		210×1279×7865
その他					
CLT 構造部分に使用した接合金物の価格	1 式：1,855,812 円				
都市計画による地域区分に○	防火地域、準防火地域、22 条地域、(それ以外) (防火指定なし)				
建築物の用途による制限	用途(一戸建ての住宅) 耐火建築物(階 m ²)、準耐火建築物(階 m ²)				
今後の普及計画	国産材を 100%使用した CLT ビルディングの建設を目標として取り組んでいる。CLT ビルディング建設により、強度の確保は勿論のこと、温もりや安らぎを持たせてくれる木質本来の性能を、一般社会へ広く浸透させ安定した循環型社会を目指す				

2. CLT の施工上におけるメリットとデメリットについて (施工利用)

①CLT の施工上におけるメリット【複数選択可】

必要な量が入手しやすい。供給が安定している。強度や曲げ性能が良い。品質(反り・ひねり)のばらつきが少ない。施工がしやすい|材面の見栄えが良い。施主への印象が良い

②CLT の施工上におけるデメリット【複数選択可】

価格が高い。納品が遅い。必要な量が入手しにくい

3. なぜ CLT を選択したか理由を具体的に記入して下さい。(施工利用)

国産材の利用促進に繋がる事に加え、木造でありながら開放的な大空間が形成できる事と他では実現しにくい高層建築を望める利点があるため

4. CLTの調達（製品発注、加工、輸送）において苦勞した点を記載してください。（施工利用）

羽柄材（小屋組・間柱等）が別途に手配が必要な事。設備配管用の開口加工が現場では困難なため事前に行わなければならない事

5. 施工における今後のCLTへの期待や希望（施工利用）

助成金を頼らず広く普及させるため、安定した供給体制と仕入れ価格の形成が必須と考える

6. 工務店等の施工者がCLTに取り組みやすくなるためのアイデア・意見について（施工利用）

工務店向けのCLT勉強会やPR活動により理解を深め、加盟店に加入しやすい環境づくりが必要と考える

7. CLTを活用した設計について、これまでの実績と作業時間について、下記の質問に対する回答を記入してください。（設計利用）

申請者がこれまでに設計したCLTの棟数	当該物件を含め 1棟
CLTを使った建築物の設計に要した作業者の人工数と日数。	4 人工（人・日） 2 日間
今後の普及計画	国産材を100%使用したCLTビルディングの建設を目標として取り組んでいる。CLTビルディング建設により、強度の確保は勿論のこと、温もりや安らぎを持たせてくれる木質本来の性能を、一般社会へ広く浸透させ安定した循環型社会を目指す

8. なぜCLTを選択したか理由を具体的に記入して下さい。（設計利用）

国産材の利用促進に繋がる事に加え、木造でありながら開放的な大空間が形成できる事と他では実現しにくい高層建築を望める利点があるため

9. 構造設計において苦勞はしましたか？（設計利用）

苦勞しなかった

10. 設計における今後のCLTへの期待や希望（設計利用）

羽柄材（小屋組・間柱等）が別途に手配が必要な事。天井・壁の一部を現わしとした場合、設備配管用の開口加工が現場では困難なため配線経路を事前に決め事前に行わなければならない事

11. 設計者がCLTに取り組みやすくなるためのアイデア・意見について（設計利用）

設計事務所向けのCLT勉強会やPR活動により理解を深め、加盟店に加入しやすい環境づくりが必要と考える

第5章 普及・広報活動

5-1 全国規模での普及・広報活動

オンラインマーケティングでは、施主となる一般消費者や、提案施工を行う事業者に向けて木のある暮らしの魅力、メリットを広く伝えるため、令和元年度に公開したオウンドメディア「ラブキノヘイ」(ウェブサイト、SNS)また「木の街づくり」(Youtube チャンネル)にて動画やコンテンツを追加し、ウェブ広告を実施したところ、以下の成果等を得ることができました。

(1) 住宅施工現場の CM 作成

本事業で施工した木造住宅のうち、地域の工務店が施工した木造住宅を例にした「木のある暮らし」の実情、良さ等をPR する YouTube に関して、3県の3事例を取り込んで作成して、「ラブキノヘイ」で紹介しました。

取り込み3事例の内訳

項目/事例	1	2	3
都道府県	山形県	宮崎県	鹿児島県
物件所在市	山形県鶴岡市	宮崎県都城市	鹿児島県鹿児島市
県産材使用量	山形県産材 9.5 m ³	宮崎県産材 27.1 m ³	鹿児島県産材 11.1 m ³
監督・主演 ナレーション	キノヘイ、キノサク ウエストランド		





Youtube 画面の一例

(2) オウンドメディアの運用結果

(ア) ウェブサイト<https://love.kinohei.jp>

令和元年度に公開したオウンドメディア「ラブキノヘイ」は、年々掲載内容、件数等を拡充しています。

本サイトの主な利用効果は、以下のとおりです。

- ① 年間の訪問者数は約 30 万に達しようとしています。
- ② 令和5年 12 月下旬から、Google 広告や Youtube 広告に取り組んだところ、通常 400 程度の訪問者数が 14,000 程度に急伸しています。なお、広告の効果は、昨年度の訪問者数は通常 300 程度だったので、常時の訪問者数の増加にも寄与しています。
- ③ ユーザー属性としては、デバイス別では、mobile が約 86%を占め、地域別では、東京都、大阪府、北海道など政令市などの大都市を有する都道府県が上位を占めています。
- ④ 集客経路では、SNS (広告を含む) が約 69%と多数を占めています。

運用結果(2023/04/01-2024/03/21)

指標	値
アクティブユーザー数(訪問した人数)	295,644
表示回数	408,672
ページビュー数(閲覧されたページ数)	586,154

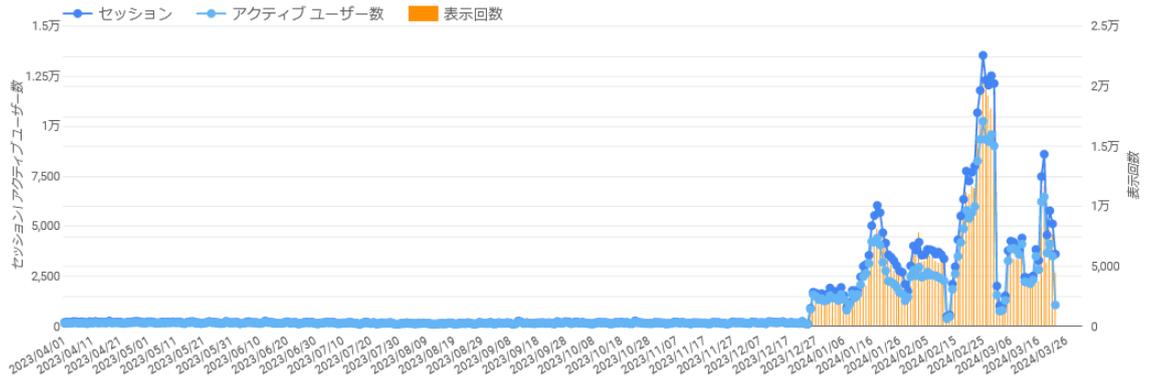
スマートフォン画面



パソコン画面



アクセスの推移



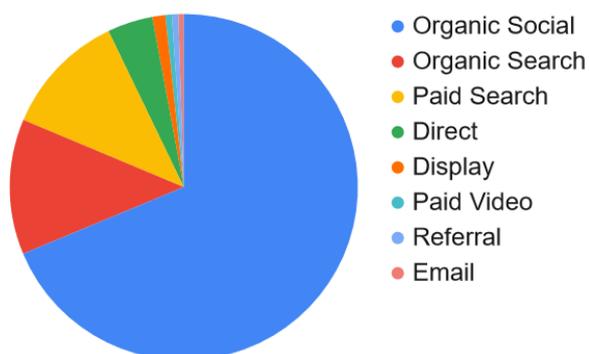
ユーザー属性(デバイス・都道府県 TOP10)

デバイス	説明	ユーザー	%
mobile	スマートフォン	281626	86.49%
desktop	パソコン	34390	10.56%
tablet	タブレット	9595	2.95%
smart tv	インターネット接続テレビ	12	0.00%

地域	アクティブユ...
1. Tokyo	93,429
2. Osaka	25,524
3. Hokkaido	17,832
4. Chiba	12,120
5. Kanagawa	10,866
6. Aichi	10,650
7. Hyogo	9,388
8. Saitama	9,797
9. Fukuoka	9,810
10. Kyoto	8,176

集客経路

Organic Social	SNS (広告も含む)	68.50%
Organic Search	検索	12.60%
Paid Search	検索広告	11.50%
Direct	アプリ・ブックマーク	4.20%
Display	WEB ディスプレイ広告	1.20%
Paid Video	Youtube 動画広告	0.60%
Referral	他のサイトからリンク	0.60%
Email	メルマガ・メールニュース	0.50%



(イ) @lovekinohei SNS 運用実績(2023/4/1~2024/3/22)

運用実績としては、フォロワー数では、LINE (VOOM、メッセージ) が約 53,000 で全体の約 70,000 の 76%を占めています。

また、表示回数では、広告を行った Youtube が約 1,986,000 回で他を圧倒しており広告の効果を発現しています。

SNS	フォロワー数	投稿数	表示回数	エンゲージメント
Facebook https://www.facebook.com/lovekinohei/	3,429	95	24,891	1,365 (いいね、シェア、クリック、コメントした人数)
X https://twitter.com/lovekinohei/	3,344	360	109,177	3,716 (いいね、リツイート、クリック、コメント等)
Instagram https://instagram.com/lovekinohiei/	5135	98	107,600	4,043 (いいね、プロフィール、コメント、保存)
LINE VOOM https://page.line.me/lovekinohei/	21,048	107	14,809	960(いいね、シェア、クリック、コメント、動画再生)
LINE メッセージ	32,080	4	13,094	1,501(クリック)
Youtube https://www.youtube.com/channel/UCESOPHDk9QM-I7fZqSORldg	5,050	6	1,985,983 (視聴回数 広告効果含む)	76(チャンネル登録者)

Facebook



X



Instagram



LINE



Youtube



(3) ラブキノヘイウェブサイトへコンテンツ追加

(ア) RoomClip コラボ企画

RoomClip 内の記事「みんなのおうち紹介」を、ラブキノヘイウェブサイトにも掲載しました。

RoomClip 運動企画みんなのおうち紹介

RoomClip 運動企画みんなのおうち紹介



機能性や心地よさだけじゃない！環境にもやさしい「国産木材」を使った家づくりのススメ



見た目も香りも心地よい！木の温もりに癒される空間の作り方



“木のある暮らし”で自然を感じて癒されたい！見た目も美しい、木の塀・木の欄がある家10選



素敵なDIYのアイデアも！“木のある暮らし”で屋外空間がもっと豊かになる



おうちで過ごす時間が長いからこそ、心やすらぐ空間を。ユーザーさんの「木のある暮らし」まとめ



“木のある暮らし”でもっと心地よい時間を過ごす◎環境にもやさしいおうちの作り方



木の温もりで、住む人にも環境にもやさしいおうちに。ユーザーさんが実現した“木のある暮らし”12選



見た目のよさも安全性も◎木のエクステリアで叶える、理想の屋外空間

(イ) 「#きになるところ #木のあるところ お出かけナビ」

これまで関東地方のみの事例(施設、店舗等)を紹介していましたが、今年度60事例を追加し167事例となったことを受けて、全国での紹介に拡大しました。



(4) ウェブ広報

プレスリリースと、Google 広告、Youtube 広告を実施しました。前述のとおり、HP への訪問者数の拡大等多大な効果をもたらしており、訪問者数の増加にも寄与しています。

(ア) プレスリリース

2024年2月16日

① タイトル

56施設を拡充して全国版へ。環境にやさしい国産材を使った木のある暮らしを体感出来る癒しスポット紹介
「#きになるところ #木のあるところ お出かけナビ」

② 掲載媒体数 46 媒体

③ 媒体掲載画面例



④ 掲載媒体名

@nifty ニュース	Mapion ニュース	Game*Spark
Dtimes	Newsweek	GameBusiness.jp
livedoor	SANSPO.COM	NewsCafe
RBB TODAY	SEOTOOLS	NOMOOO
ビズハック！	StartHome	Push on! Mycar-life
@Press	woman.excite	rentaloffice.bz
LINE ニュース	zakzak	Response
NEWSCAST	えんウチ	めしレポ
ニコニコニュース	とれまがニュース	アニメ！アニメ！
@nifty ビジネス	クイックオーダー※	インサイド
Barclay Global BIZ	徳島新聞 Web	マナラボ
BIGLOBE ニュース	財經新聞	リセマム
bizoccean※	毎日新聞	超！アニメディア
excite.ニュース	30min	Edge Line
Infoseek ニュース	cinemacafe.net	News Lounge
ふれにゅー		

(イ) Google 広告「お出かけナビ」

① 検索広告(結果と掲載例)

配信期間	表示回数	クリック数
2024/2/17～2/29	1,444,497	5,613



② ディスプレイ広告(結果と掲載例)

配信期間	表示回数	クリック数
2024/2/17～2/29	2,393,808	21,205



(ウ) Youtube 広告:インストリーム広告

関連した他の動画の前や途中で、7秒間再生する運用を行いました。

配信期間	配信期間	表示回数	視聴回数
【ルームツアー】Vol.3 中古マンションを日本の木で好きな空間にカスタマイズ	2023/11/20～12/19	598,798	308,073
【ルームツアー】Vol.4 伝統構法にモダンが息づく、中庭のある木の家	2024/2/1～2/29	502,755	228,009
イラストでわかる木のある暮らし「森のサイクル」	2024/2/7～2/29	1,045,486	705,867
【ルームツアー】Vol.5 まるでログハウス。木の塊に守られて暮らす5人家族の小さな3層の家	2024/3/2～3/15	388,744	234,298
【ルームツアー】Vol.6 日本の木が織りなす穏やかな空間。和モダンリノベーションで第二の人生を彩る	2024/3/15～3/20	236,652	113,098
【RoomClip】家族とともに成長を楽しむ「国産木材を活用した自然素材の家づくり」	2024/3/12～3/20	753,815	414,398



【ルームツアー】Vol.3中古マンションを日本の木で好...

木材で街づくり
31万回視聴・11か月前



【ルームツアー】Vol.4 伝統構法にモダンが息づく、中...

木材で街づくり
20万回視聴・1か月前



イラストでわかる木のある暮らし | 森のサイクル篇

木材で街づくり
71万回視聴・3週間前



【ルームツアー】Vol.5 まるでログハウス。木の塊に守...

木材で街づくり
22万回視聴・3週間前



【ルームツアー】Vol.6 日本の木が織りなす穏やかな空...

木材で街づくり
11万回視聴・8日前



【RoomClip】国産木材を活用した自然素材の家づくり

木材で街づくり
41万回視聴・11日前

5-2 地域木材団体における普及・広報活動

地方組織である県木連等と連携し、本事業の普及啓発に向け、Web 説明会を通じた事業の説明、展示会での展示等を通じた普及を実施しました。

建築用木材の転換促進支援事業報告書 (製材)

本事業における施工利用において、製材を使用した申請者は、下記の1から3までの質問に回答してください。また、本事業における設計利用において、製材を使用した申請者は、下記の4及び5の質問に回答してください。なお、共同申請した場合は、共同申請者の意見も踏まえて記載してください。

1. 申請物件の部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種 (施工利用)

各部材ごとに①から③までの質問項目に対する回答を選択してください。

※枠組壁工法の場合、縦枠・上下枠は柱材に含め、床根太・端根太・頭つなぎは横架材のうち土台等以外に含める。

※丸太組工法の場合、壁を設ける際に、水平に積み上げる製材は横架材のうち土台等以外に含める。

部材 質問	柱 (管柱・通し柱)	横架材 (土台・大引・ 母屋・棟木以外 の横架材)	土台等 (土台、大引、 母屋・棟木)	羽柄材 (間柱、筋交 い、その他非 構造部材)	面材 (床、外壁、 屋根等)	内装材・造 作材
①各部材に おける国産 材の使用割 合 (材積)	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上	<input type="checkbox"/> 0%～25%未満 <input type="checkbox"/> 25%～50%未満 <input type="checkbox"/> 50%～75%未満 <input type="checkbox"/> 75%以上
②各部材に おける最も 多い材種の 製品【1つ 選択】	<input type="checkbox"/> 製材(JAS) <input type="checkbox"/> 製材 (乾燥材) <input type="checkbox"/> 製材 (未乾燥) <input type="checkbox"/> 集成材 <input type="checkbox"/> LVL <input type="checkbox"/> 非木質系部材 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 製材(JAS) <input type="checkbox"/> 製材 (乾燥材) <input type="checkbox"/> 製材 (未乾燥) <input type="checkbox"/> 集成材 <input type="checkbox"/> LVL <input type="checkbox"/> 非木質系部材 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 製材(JAS) <input type="checkbox"/> 製材 (乾燥材) <input type="checkbox"/> 製材 (未乾燥) <input type="checkbox"/> 集成材 <input type="checkbox"/> LVL <input type="checkbox"/> 非木質系部材 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 製材(JAS) <input type="checkbox"/> 製材 (乾燥材) <input type="checkbox"/> 製材 (未乾燥) <input type="checkbox"/> 集成材 <input type="checkbox"/> LVL <input type="checkbox"/> 非木質系部材 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 合板 <input type="checkbox"/> パーティクルボ ード <input type="checkbox"/> 構造用パネル (OSB) <input type="checkbox"/> MDF (中質織 維板) <input type="checkbox"/> CLT <input type="checkbox"/> 無機系面材 <input type="checkbox"/> 製材(荒床材、 きざり、野地板) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 製材(JAS) <input type="checkbox"/> 製材 (乾燥材) <input type="checkbox"/> 製材 (未乾燥) <input type="checkbox"/> 集成材 <input type="checkbox"/> LVL <input type="checkbox"/> 非木質系部材 <input type="checkbox"/> その他
③ ②で選択 した製品の 主な樹種 【1つ選 択】	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド	<input type="checkbox"/> スギ <input type="checkbox"/> ヒノキ <input type="checkbox"/> 国産カラマツ <input type="checkbox"/> トドマツ <input type="checkbox"/> ベイツガ <input type="checkbox"/> ペイマツ <input type="checkbox"/> ホワイトウッド

	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> レッドウッド <input type="checkbox"/> ロシアアカマ ツ・エゾマツ <input type="checkbox"/> SPF <input type="checkbox"/> 樹種不明 <input type="checkbox"/> その他
--	---	---	---	---	---	---

2. 主要構造部における国産材製材の使用状況及びメリット・デメリットについて（施工利用）

各部材ごとに①から⑤までの質問項目に対する回答を選択してください。国産材の使用がない場合は記入の必要はありません。

部材 質問	柱材	横架材
①これまでの施工物件と比較して、申請物件における、国産材製材（JAS材・乾燥材）の使用量は変化しましたか。（材積）	<input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した	<input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した
②国産材製材（JAS材・乾燥材）の施工上におけるメリット【複数選択可】	<価格に関すること> <input type="checkbox"/> 価格が安い <調達に関すること> <input type="checkbox"/> 納品が早い <input type="checkbox"/> 必要な寸法が入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な含水率のものが入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な量が入手しやすい <input type="checkbox"/> 調達先の選択肢が多い <input type="checkbox"/> 供給が安定している <品質に関すること> <input type="checkbox"/> 強度や曲げ性能が良い <input type="checkbox"/> 品質(反り・ひねり)のばらつきが少ない <input type="checkbox"/> 施工がしやすい <input type="checkbox"/> 材面の見栄えが良い <input type="checkbox"/> 施主への印象が良い <その他>	<価格に関すること> <input type="checkbox"/> 価格が安い <調達に関すること> <input type="checkbox"/> 納品が早い <input type="checkbox"/> 必要な寸法が入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な強度・曲げ性能のものが入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な含水率のものが入手しやすい <input type="checkbox"/> 必要な量が入手しやすい <input type="checkbox"/> 調達先の選択肢が多い <input type="checkbox"/> 供給が安定している <品質に関すること> <input type="checkbox"/> 強度や曲げ性能が良い <input type="checkbox"/> 品質(反り・ひねり)のばらつきが少ない <input type="checkbox"/> 施工がしやすい <input type="checkbox"/> 材面の見栄えが良い <input type="checkbox"/> 施主への印象が良い <その他>

	□その他（ ）	□その他（ ）
③国産材製材 (JAS材・乾燥材)の施工上におけるデメリット【複数選択可】	<p><価格に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>価格が高い</p> <p><調達に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>納品が遅い</p> <p><input type="checkbox"/>必要な寸法が入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な強度・曲げ性能のものが入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な含水率のものが入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な量が入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>調達先の選択肢が少ない</p> <p><input type="checkbox"/>供給が安定していない</p> <p><品質に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>強度や曲げ性能が良くない</p> <p><input type="checkbox"/>品質(反り・ひねり)のばらつきが多い</p> <p><input type="checkbox"/>施工がしにくい</p> <p><input type="checkbox"/>材面の見栄えが良くない</p> <p><input type="checkbox"/>施主への印象が良くない</p> <p><その他></p> <p><input type="checkbox"/>□その他（ ）</p>	<p><価格に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>価格が高い</p> <p><調達に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>納品が遅い</p> <p><input type="checkbox"/>必要な寸法が入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な強度・曲げ性能のものが入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な含水率のものが入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>必要な量が入手しにくい</p> <p><input type="checkbox"/>調達先の選択肢が少ない</p> <p><input type="checkbox"/>供給が安定していない</p> <p><品質に関すること></p> <p><input type="checkbox"/>強度や曲げ性能が良くない</p> <p><input type="checkbox"/>品質(反り・ひねり)のばらつきが多い</p> <p><input type="checkbox"/>施工がしにくい</p> <p><input type="checkbox"/>材面の見栄えが良くない</p> <p><input type="checkbox"/>施主への印象が良くない</p> <p><その他></p> <p><input type="checkbox"/>□その他（ ）</p>
④補助事業が無くても今回使用した国産材を使った建築をしたいと思いますか。	<p><input type="checkbox"/>はい</p> <p><input type="checkbox"/>いいえ</p> <p><input type="checkbox"/>どちらでもない</p>	<p><input type="checkbox"/>はい</p> <p><input type="checkbox"/>いいえ</p> <p><input type="checkbox"/>どちらでもない</p>
⑤ ④の回答の理由をお聞かせください。【自由記載】		

4. 主要構造部における国産材製材の使用状況及びメリット・デメリット（設計利用）

各部材ごとに①から④までの質問項目に対する回答を選択・記入してください。

部材 質問	柱材	横架材
①これまでの設計物件と比較して、申請物件における、国産材製材（JAS材・乾燥材）の使用量は変化しましたか。（材積）	<input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した	<input type="checkbox"/> 増加した <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減少した
②国産材製材（JAS材・乾燥材）の設計上におけるメリット【複数選択可】	<input type="checkbox"/> 設計の自由度が高くなる <input type="checkbox"/> 必要な構造安全性を確保しやすい <input type="checkbox"/> 施主への印象が良い <input type="checkbox"/> 設計に係る作業時間が減る <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 設計の自由度が高くなる <input type="checkbox"/> 必要な構造安全性を確保しやすい <input type="checkbox"/> 施主への印象が良い <input type="checkbox"/> 設計に係る作業時間が減る <input type="checkbox"/> その他（ ）
③国産材製材（JAS材・乾燥材）の設計上のデメリット【複数選択可】	<input type="checkbox"/> 設計の自由度が下がる <input type="checkbox"/> 必要な構造安全性を確保しづらい <input type="checkbox"/> 施主への印象が良くない <input type="checkbox"/> 設計に係る作業時間が増える <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 設計の自由度が下がる <input type="checkbox"/> 必要な構造安全性を確保しづらい <input type="checkbox"/> 施主への印象が良くない <input type="checkbox"/> 設計に係る作業時間が増える <input type="checkbox"/> その他（ ）
④国産材製材を使用する設計の場合、集成材や輸入材製材を使用する場合と比べて、特に何か工夫していることはありますか。【複数選択可】	<input type="checkbox"/> 特にない（又は比較したことがないのでわからない） <input type="checkbox"/> 断面を大きくする <input type="checkbox"/> 間隔を狭める <input type="checkbox"/> 直下率（2階柱の下に1階柱がある率）を意識する <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 特にない（又は比較したことがないのでわからない） <input type="checkbox"/> 断面を大きくする <input type="checkbox"/> スパンを短くする <input type="checkbox"/> その他（ ）
⑤補助事業が無くても今回使用した国産材を使った設計をしたいと思いますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらでもない	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらでもない

<p>⑥ ⑤の回答 の理由をお聞 かせくださ い。【自由記 載】</p>		
--	--	--

様式第6号-3 (CLT)

建築用木材の転換促進支援事業報告書 (CLT)

本事業における施工利用において、CLTを使用した申請者は、下記の1から6までの質問に回答してください。また、本事業における設計利用において、CLTを使用した申請者は、下記の7から11の質問に回答してください。なお、共同申請した場合は、共同申請者の意見も踏まえて記載してください。

CLT以外の助成部材 (JAS 集成材等) がある場合は、様式第6号-2 (製材) も回答してください。

1. CLTの調達や規格等について (施工利用)

以下の質問に対する回答を記入してください。

施主の名称			
構造の工法(設計ルート)	工法(設計ルート :)		
構造別階数(内訳)	階(階	工法+ 階 工法)
竣工日(又は竣工予定日)	令和	年	月 日竣工(令和 年 月竣工予定)
申請者がこれまでに建築したCLTの棟数	当該物件を含め 棟		
CLTの構造躯体の建方に要した作業者の人工数と日数(基礎施工日数は除く)	人工 (人・日) 日間		
CLTの施工に掛かるクレーン等機械の大きさ別の台数	t ×	m	台
	t ×	m	台
輸送に要したトラックの種類と延べ台数	t 車	台	
	t 車	台	
使用したCLTの製造工場名		(所在地市町村名)	
使用したCLTのプレカット工場名		(所在地市町村名)	
代表的な接合金具の製造工場		(所在地市町村名)	
CLTの納品に要した期間	注文から納入まで約 週間		

発注先に○	発注先：CLT 製造工場、プレカット工場、（それ以外）				
接合金物の納品に要した期間 (代表的なもの)	既製品の場合：約 週間 特注品の場合：約 週間				
建築物のモジュールに○	910 mm、1,000 mm、（それ以外）				
ラミナの地域材の指定に○	指定なし、指定有り（地域：）				
使用した CLT の規格・数量等 ※単価は、規格別に現地着価格（CLT+プレカット加工費+運搬費）とする。なお、円/枚又は円/m ³ のどちらかとする。	部材名	単価（円/枚）※	樹種	強度等級／構成	代表的な部材寸法と枚数 厚さ×幅×長さ×枚数
	屋根				
	横架材				
	壁材				
	床材				
	その他				
CLT 構造部分に使用した接合金物の価格	1 式： 円				
都市計画による地域区分に○	防火地域、準防火地域、22 条地域、それ以外				
建築物の用途による制限	用途（） 耐火建築物（ 階 m ² ）、準耐火建築物（ 階 m ² ）				

	<input type="checkbox"/> その他 ()
--	----------------------------------

3. なぜ CLT を選択したか理由を具体的に記入して下さい。(施工利用)

4. CLTの調達（製品発注、加工、輸送）において苦勞した点を記載してください。(施工利用)

(必要なサイズを供給できる工場を見つけるのに苦勞した、加工に時間がかかった、パネルサイズと道路幅の関係で現場への搬入が難しかった等)

5. 施工における今後のCLTへの期待や希望 (施工利用)

6. 工務店等の施工者がCLTに取り組みやすくなるためのアイデア・意見について (施工利用)

7. CLTを活用した設計について、これまでの実績と作業時間について、下記の質問に対する回答を記入してください。(設計利用)

申請者がこれまでに設計した CLT の棟数	当該物件を含め 棟
CLT を使った建築物の設計に要した作業者の人工数と日数。	人工 (人・日) 日間
今後の普及計画	

8. なぜ CLT を選択したか理由を具体的に記入して下さい。(設計利用)

※施工者と設計者が同一の場合は以下の質問項目の回答は不要です。

9. 構造設計において苦勞はしましたか？(設計利用)

【とても苦勞した／やや苦勞した／どちらともいえない／あまり苦勞しなかった
／苦勞しなかった】(選択する)

→とても苦勞した／やや苦勞した／どちらともいえない／あまり苦勞しなかったを選択した方は、どのような点で苦勞したか具体的に記入して下さい。

10. 設計における今後の CLT への期待や希望 (設計利用)

11. 設計者がCLTに取り組みやすくなるためのアイデア・意見について（設計利用）

--

建築用木材の転換促進支援事業申請書 別紙3

「国産材等の利用に関する取組の状況」とりまとめ

1. 施工における取組（令和4年度実績）

回答数：109

項目	選択肢等	カウント数
(1) 申請者の主な活動地域	北海道	0
	東北	14
	関東	31
	中部	39
	近畿中国	12
	四国	4
	九州	9
(2) 申請者の木造住宅の年間供給戸数	1戸	11
	2戸	11
	3戸	9
	4戸	5
	5戸	3
	6～10戸	14
	11～20戸	29
	21～100戸	22
	101戸～	5
	(3) 主に建築する住宅の種類	注文住宅
建売住宅		6
(4) 主に使用する木造住宅の工法	在来軸組工法	79
	ツーバイフォー工法	30
	木質プレハブ工法	0
	丸太組工法	0
(5) 住宅の設計も自社で取り組んでいますか	はい	87
	いいえ	22
(6) 建築した住宅における部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種		
①各部材における国産材の使用割合		
柱(管柱・通し柱)	0%	22
	1%から25%未満	8
	25%から50%未満	3
	50%から75%未満	7
	75%以上	68
横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	0%	24
	1%から25%未満	8
	25%から50%未満	8
	50%から75%未満	10
	75%以上	58
横架材・土台等以外	0%	31
	1%から25%未満	14
	25%から50%未満	11
	50%から75%未満	3
	75%以上	48

項 目	選択肢等	カウント数
羽柄材(間柱、筋交い等)	0%	13
	1%から25%未満	13
	25%から50%未満	5
	50%から75%未満	7
	75%以上	52
面材(床、外壁、屋根等)	0%	22
	1%から25%未満	10
	25%から50%未満	22
	50%から75%未満	20
	75%以上	34
内装材・造作材	0%	16
	1%から25%未満	29
	25%から50%未満	15
	50%から75%未満	10
	75%以上	21
②各部材において主に使用した製品		
柱(管柱・通し柱)	製材(JAS)	46
	製材(乾燥材)	46
	製材(未乾燥)	0
	集成材	14
	LVL	0
	非木質部材	0
	その他	0
横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	製材(JAS)	31
	製材(乾燥材)	71
	製材(未乾燥)	3
	集成材	1
	LVL	1
	非木質部材	0
	その他	1
横架材・土台等以外	製材(JAS)	43
	製材(乾燥材)	56
	製材(未乾燥)	1
	集成材	7
	LVL	1
	非木質部材	0
	その他	0
羽柄材(間柱、筋交い等)	製材(JAS)	15
	製材(乾燥材)	63
	製材(未乾燥)	1
	集成材	3
	LVL	1
	非木質部材	0
	その他	4

項 目	選択肢等	カウント数
面材(床、外壁、屋根等)	合板	91
	パーティクルボード	5
	構造用パネル(OSB)	2
	MDF(中質繊維板)	2
	CLT	0
	無機系面材	2
	製材(荒床材、さずり、野地板)	3
	その他	4
内装材・造作材	製材(JAS)	6
	製材(乾燥材)	47
	製材(未乾燥)	1
	集成材	10
	LVL	1
	非木質部材	4
	その他	20
③ ②で選択した製品の主な樹種		
柱(管柱・通し柱)	スギ	65
	ヒノキ	15
	国産カラマツ	0
	ベイツガ	0
	ベイマツ	2
	ホワイトウッド	3
	レッドウッド	4
	ロシアアカマツ・エゾマツ	0
	SPF	18
	樹種不明	0
	その他	0
	横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	スギ
ヒノキ		69
国産カラマツ		0
ベイツガ		21
ベイマツ		5
ホワイトウッド		0
レッドウッド		2
ロシアアカマツ・エゾマツ		0
SPF		2
樹種不明		0
その他		3

項 目	選択肢等	カウント数
横架材・土台等以外	スギ	39
	ヒノキ	4
	国産カラマツ	2
	ベイツガ	1
	ペイマツ	33
	ホワイトウッド	1
	レッドウッド	5
	ロシアアカマツ・エゾマツ	1
	SPF	22
	樹種不明	0
	その他	0
	羽柄材(間柱、筋交い等)	スギ
ヒノキ		3
国産カラマツ		0
ベイツガ		1
ペイマツ		7
ホワイトウッド		10
レッドウッド		3
ロシアアカマツ・エゾマツ		0
SPF		4
樹種不明		0
その他		2
面材(床、外壁、屋根等)		スギ
	ヒノキ	6
	国産カラマツ	11
	ベイツガ	1
	ペイマツ	5
	ホワイトウッド	0
	レッドウッド	2
	ロシアアカマツ・エゾマツ	0
	SPF	2
	樹種不明	30
	その他	10
	内装材・造作材	スギ
ヒノキ		4
国産カラマツ		0
ベイツガ		3
ペイマツ		2
ホワイトウッド		0
レッドウッド		1
ロシアアカマツ・エゾマツ		3
SPF		3
樹種不明		14
その他		29

2. 設計における取組（令和4年度実績）

回答数：20

項目	選択肢等	カウント数
(1) 申請者の主な活動地域	北海道	0
	東北	1
	関東	4
	中部	9
	近畿中国	2
	四国	3
	九州	1
(2) 申請者の木造住宅の年間供給戸数	1戸	1
	2戸	2
	3戸	2
	4戸	3
	5戸	0
	6～10戸	4
	11～20戸	5
	21～100戸	2
	101戸～	1
(3) 主に建築する住宅の種類	注文住宅	18
	建売住宅	2
(4) 主に使用する木造住宅の工法	在来軸組工法	18
	ツーバイフォー工法	2
	木質プレハブ工法	0
	丸太組工法	0
(5) 住宅の設計も自社で取り組んでいますか	はい	13
	いいえ	7
(6) 建築した住宅における部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種		
①各部材における国産材の使用割合		
柱(管柱・通し柱)	0%	3
	1%から25%未満	0
	25%から50%未満	0
	50%から75%未満	4
	75%以上	13
横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	0%	2
	1%から25%未満	2
	25%から50%未満	1
	50%から75%未満	5
	75%以上	10
横架材・土台等以外	0%	5
	1%から25%未満	3
	25%から50%未満	1
	50%から75%未満	4
	75%以上	7

項 目	選択肢等	カウント数
羽柄材(間柱、筋交い等)	0%	3
	1%から25%未満	3
	25%から50%未満	0
	50%から75%未満	6
	75%以上	7
面材(床、外壁、屋根等)	0%	1
	1%から25%未満	3
	25%から50%未満	4
	50%から75%未満	5
	75%以上	7
内装材・造作材	0%	3
	1%から25%未満	5
	25%から50%未満	5
	50%から75%未満	3
	75%以上	3
②各部材において主に使用した製品		
柱(管柱・通し柱)	製材(JAS)	5
	製材(乾燥材)	12
	製材(未乾燥)	1
	集成材	2
	LVL	0
	非木質部材	0
	その他	0
横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	製材(JAS)	3
	製材(乾燥材)	14
	製材(未乾燥)	1
	集成材	1
	LVL	1
	非木質部材	0
	その他	0
横架材・土台等以外	製材(JAS)	6
	製材(乾燥材)	12
	製材(未乾燥)	1
	集成材	1
	LVL	0
	非木質部材	0
	その他	0
羽柄材(間柱、筋交い等)	製材(JAS)	4
	製材(乾燥材)	13
	製材(未乾燥)	1
	集成材	1
	LVL	0
	非木質部材	0
	その他	0

項 目	選択肢等	カウント数
面材(床、外壁、屋根等)	合板	14
	パーティクルボード	1
	構造用パネル(OSB)	2
	MDF(中質繊維板)	0
	CLT	0
	無機系面材	0
	製材(荒床材、さずり、野地板)	2
	その他	1
内装材・造作材	製材(JAS)	2
	製材(乾燥材)	12
	製材(未乾燥)	1
	集成材	2
	LVL	0
	非木質部材	0
	その他	3
③ ②で選択した製品の主な樹種		
柱(管柱・通し柱)	スギ	10
	ヒノキ	7
	国産カラマツ	0
	ベイツガ	0
	ベイマツ	1
	ホワイトウッド	0
	レッドウッド	1
	ロシアアカマツ・エゾマツ	0
	SPF	1
	樹種不明	0
	その他	0
	横架材・土台等(土台、大引、母屋、棟木)	スギ
ヒノキ		12
国産カラマツ		0
ベイツガ		0
ベイマツ		1
ホワイトウッド		0
レッドウッド		2
ロシアアカマツ・エゾマツ		0
SPF		0
樹種不明		0
その他		3

項 目	選択肢等	カウント数
横架材・土台等以外	スギ	9
	ヒノキ	1
	国産カラマツ	1
	ベイツガ	0
	ペイマツ	6
	ホワイトウッド	0
	レッドウッド	2
	ロシアアカマツ・エゾマツ	0
	SPF	1
	樹種不明	0
	その他	0
	羽柄材(間柱、筋交い等)	スギ
ヒノキ		1
国産カラマツ		0
ベイツガ		0
ペイマツ		4
ホワイトウッド		5
レッドウッド		1
ロシアアカマツ・エゾマツ		0
SPF		0
樹種不明		0
その他		0
面材(床、外壁、屋根等)		スギ
	ヒノキ	0
	国産カラマツ	1
	ベイツガ	0
	ペイマツ	2
	ホワイトウッド	0
	レッドウッド	1
	ロシアアカマツ・エゾマツ	0
	SPF	1
	樹種不明	7
	その他	0
	内装材・造作材	スギ
ヒノキ		1
国産カラマツ		0
ベイツガ		0
ペイマツ		1
ホワイトウッド		0
レッドウッド		1
ロシアアカマツ・エゾマツ		1
SPF		1
樹種不明		3
その他		2

国産材等の利用に関する取組の状況

【自由記載】

※回答文の最後の数字は同旨の回答数です。

1. 施工における取組（令和4年度実績）

(7) 国産材の利用に関する現在(又は今後)の取組内容

構造躯体はツーバイフォーの為、SPFを使用。壁合板以外に国産材の合板を推進しています。10	新潟県産の杉を積極的に使用します。7	国産材をなるべく使うようにつとめたいと考えます。3
自社の建築住宅には土台、柱部において国産材の使用を優先して活用しています。今後も事業趣旨に賛同し積極的に国産材の使用をしております。3	住宅の縦枠・合板について国産材を使用するように促進している。3	しずおか優良木材や国産材・県産材を使用することにより、地域の森林循環に関わっているということを再認識できます。また、お施主様にも地域材を使用することを伝えることで、自分の家に使用されているという認識を持たせ、親近感を感じることが出来ます。リフォームなど静岡県は県産材を使用すると補助が出るため、静岡県産木材を使うことで環境保全や地域に貢献していることを話しながら、メリットしかないことを説明しています。2
構造躯体はツーバイフォーの為、SPFを使用。縦枠材・床野地合板に国産材の合板を使用しています。2	ツーバイフォー工法の為、SPFが多く使用されますが合板は国産材の使用を促進しています。2	強度等の問題により国産材を採用できないとき以外は、今後も国産材を中心に採用していきます。
現在利用が少ないが、国産材の使用に努めていきたいです。	木材に関しては地産地消を考慮し、今後も県産材を使用していきます。	造作材で国産材を多く扱うようにしています。
地域型グリーン化事業を利用することにより、積極的に国産材を採用しています。	スタッド等は今後桧材を使用していくことを検討します。	広島県産材の補助金もあり主要な部分は県産材を標準設定にして採用しています。
国産材の利用に関して、構造材には90%以上国産材を使用しています。今後も引き続き国産材を利用する予定です。	高知県産木材を、これまでも使用しており、今後も引き続き国産材・県産材を活用しています。	国産材を地産地消することで、林業の活性化を説明していきます。SDGsの観点より、森林循環の重要性を共有します。
新築の場合は100%使用しています。今後も日本の風土に合う国産材を使用していく予定です。	構造材・内装化粧材等共、100%近隣地域木材を使用した注文住宅を提供させていただいております。	材木屋にほとんどお任せでしたが県産材やJAS製品を積極的に取り入れていきます。
国産材(県産材)の活用、普及を念頭に置き見学会や打ち合わせで紹介しています。今後はホームページやインスタグラム等でも積極的に周知していきたいです。	「丹波篠山の家普及促進事業」「ひょうご木の家設計支援」において丹波篠山市産材、兵庫県産木材を積極的に利用しております。	構造用合板に国産の杉板パネルを採用したいです。横架材は米松一択でしたが杉材という選択肢も検討していきたいです。
仕入先である木材小売業者を通じ、兵庫県宍粟市の森林組合業者と桧、杉材の利用を検討しています。	柱・間柱・土台は県産杉・ヒノキを標準化し、横架材は主に米松を使用しています。	主にスタッドにスギ材を使用しています。構造用合板も全て国産針葉樹のものを使用しています。
木造化に加え内外部の木質化に努めています。完成現場見学会を開催して木の良さをアピールしています。	令和8年5月までにJAS構造材を使用した建物を30棟、及び枠組み壁工法の構造材の国産化を目指します。	耐久性が高く、寿命の長い国産材の標準仕様とし、需要率を多く進めていくよう推進致します。
木材のライフサイクルや地産地消も含めた、トータルコスト、金額だけではなく、持続可能な環境づくりを目指した提案を、プレカット業者と協議して、建築を行いたいです。	構造材については引き続き合法性木材を主体として、内装材についても国産の良さを建築主にPRし積極的に利用するように努めます。	国産材はもとより、構造材に関しては、出来る限り地域材を使用しております。地産地消の考えのもと、現在、全てのお客様の住宅において、国産材を使用した建築を達成しています。
積極的に国産材(長野県産材)を利用するべく、根羽村森林組合の山林にて買い付け乾燥、製材した材を仕入れています。	県産材を利用した設計施工の実績があります。今後も県産を含め国産材の利用を積極的に取り組んでいきます。	弊社では地産地消の観点及び入手の容易さに重点を置き、出来るだけ国産材を使用することに注力しております。
地場産及び近県材を100%利用。グリーン材及びドライ材を併用し建築しています。今後は100%、ドライ材・集成材にシフトして行く予定です。	日本の風土に囲まれ育った国産材は、家づくりの木材として最も適していると思います。今後は特に、内装材の使用割合を増やす事により、建物の品質向上に努めてまいります。	SDGsターゲット15-2「陸の豊かさを守ろう」の達成目標として、「新築住宅の構造躯体への県産または地域産木材の全棟採用」を掲げ、国産材の利用に積極的に取り組んでいます。

<p>ツーバイフォー工法では、珍しく国産材を使用しています。</p> <p>今後も国産材の使用を続けたいです。</p> <p>国産材の入手ルート等の情報を集めて国産材使用をしていきます。</p> <p>国の林業の活性化に貢献したいです。</p>	<p>SPFの価格が現在安定している為、国産材の使用には至っておりません。</p> <p>しかし、SDGsや支援事業に積極的に参加していきたいと思っておりますので、国産材を使用し品質精度を活かした取り組みをしていきたいと存じております。</p>	<p>案件の条件合わせながら、内装材、造作材を含めた積極的な国産材の活用を推進します。</p> <p>補助金の有無にかかわらず、柱、横架材の50%以上をJAS製材とすることを目標に事業を推進します。</p>
<p>学生対象のインターンシップや中学生対象の職業体験、小学生を対象にしたワークショップなどで伐採体験や製材所の見学、木工の体験を通じて木育を行っています。</p> <p>住宅以外の建築物において木造を推薦し木材の使用量を増やしています。</p>	<p>現在は、上記記載通りの国産材の使用割合となっていますが、今後は内装材などを国産材利用などでできればと思っています。</p> <p>昨今内装の木質化が少なくなってきていますが、内装の木質化を積極的に取り組めるように普及していければと思っています。</p>	<p>ウッドショック以前から横架材以外は国産材を使う在来工法をメインで施工していましたが、横架材は米松を使っていた為に材料の調達にかなり苦労した為、今後の取り組みとしては、横架材も国産の杉材を使っていきたいと思っています。</p>
<p>国土の約3分の2を占める森林資源の有効活用として、CLT材を利用した建物を積極的に取組む所存です。</p> <p>CLT材は鉄筋コンクリートの凡そ半分の重量のため建物の軽量化が図れる上、耐震性・耐火性・断熱性にも優れます。</p> <p>国産材の活用により、森林伐採・植樹など山林保全を促進させ循環型社会の一役を担う先導的な役割を果たしたいと考えます。</p>	<p>梁のあらわしなど、内外装の仕上げとしても活用することで、和風建築を希望されるお客様に向けて木材の活用機会を増やしていきたいと考えています。</p> <p>その上で、国産材を利用することにコスト面での不安があった場合、今回のような助成金をうまく活用して、お客様にメリットを提示できるようにしたいです。</p>	<p>構造材・羽柄材は国産材(特に県産材)を積極的に活用しています。</p> <p>年間供給戸数のうちの半分以上は構造材・羽柄材の100%に国産材(県産材)を利用し、それ以外の物件でも50%以上は国産材(県産材)を利用するようにしています。</p> <p>内装材、造作材に関しても可能な限り国産材を利用しているが、今後は更にその割合を増やしていきたいです。</p>
<p>自社で国産、県産材の原木を仕入れ、製材、乾燥、加工までの製品化を一貫して行っており、その製品を使用して板倉構法での家づくり(個人住宅がメイン)をしています。</p> <p>信州木材認証製品の認証工場でもあります。</p> <p>住宅に使用する材料全体に占める木材割合が高いため、地域の木材消費、循環に大きく貢献する重要な仕事であると自負しています。</p> <p>今後は更に身近な伊那市産の木材を、山と繋がりがつ使用できるよう努めていきたいと思っています。</p>	<p>当社の注文住宅では、柱と土台に国産ヒノキ、間柱に国産スギを使用することを標準としており、特に柱のヒノキ材においては顧客からの高評価を得る場面も多いと言えます。(当申請物件では賃貸用途の戸建住宅ということもあり、標準外の仕様です。)</p> <p>また、内装にスギの無垢床材を選定する物件も若干数存在します。</p> <p>その他の構造材は大部分を輸入材で賄っているのが現状ですが、静岡県の県産材の利用に関心のある顧客の住宅では県産材を用いる事例もあり、今後そうした事例が増えていくことも期待される状況です。</p>	<p>静岡県内での建築に関して「しずおか優良木材認証材」を主に使用しています。</p> <p>今後、県外に建てる場合もJAS構造材、「しずおか優良木材認証材」を積極的に採用していきます。</p> <p>合板に関しても、静岡県内メーカーのJAS構造合板を使用しています。断熱材に関しても、国産の木質繊維断熱材の採用実績があります。</p> <p>お客様にも国産材の魅力を伝えながら、内装材にも多く採用をいただいております。</p> <p>お客様自身に生えている木を選んでいただく大黒柱伐採ツアーも行っており、今後も国産材への興味、関心を高めてもらうと共に、弊社建築物の品質、性能向上を図って参ります。</p>
<p>かごしま材や県産材を中心とした地域材の活用で、2050年カーボンニュートラルの実現、脱炭素に貢献することに取り組んでいます。</p> <p>地域森林資源の持続可能性を確保しながら、林業経営、人材育成、木材供給、利用と一貫通貫のビジネスモデルを展開しています。</p> <p>具体的には、林業経営基盤構築のため100haの山林保有、大工技能者を雇用し育成する会社を設立するなど、グループ全体で連携を図りながら取り組んでいます。</p> <p>また、ブレイク事業においては地域の建設事業者や建築主に対して、地域材を積極的に活用するよう働きかけるとともに、地域材を利用した建築用木材の安定的かつ効果的な供給体制整備を進めます。</p>	<p>独立開業(2009年)以前から、現在まで、30数年間建設業者として在来軸組工法の住宅建築に携わり、注文住宅の設計施工をしています。</p> <p>国産青森ひばと杉を多用した住宅を提案提供する際、まずはオーナー様に、木を使う事は地球温暖化防止(SDGs)にも繋がり、木を見える化(太柱・真壁・内装無垢材利用)することの恩恵(温かさや・調湿・五感への効能)を説明し理解していただく教室も開催しています。</p> <p>ただ、木も人間も自然の一部、多少の割れや反りも「本物の証拠」、「乾燥もほどほどに」を推奨しています。</p>	<p>現在は土台、柱は品質、性能の確かな国産材(JAS製品)100%利用していますが、梁等の横架材は安価に設計強度を確保しやすい、ペイマツを主として使用しています。</p> <p>しかしながら、昨今の海外情勢の影響や、木質内装へのニーズの高まりもあり、梁等にも積極的にJAS国産材(杉、カラマツ等)を活用していくことで材料の安定供給や変化する顧客ニーズに応えています。</p>

<p>これまで国産材利用に幾度もチャレンジしてきたが、2x4規格での材料確保が容易ではありませんでした。</p> <p>為替や山火事、国際情勢により価格が不安定な状況が続き、今後も同様の状況が続くものと思料しています。</p> <p>現在では大手住宅会社も国産2x4材を調達するようになり、以前より材料の確保がしやすくなりました。</p> <p>今後は、山を守り、生産者を守り、住宅産業にかかわるすべての人が豊になるためにも、積極的に国産材を活用していきます。</p>	<p>ウッドショック以前より弊社は、国産無垢乾燥材(土台:ヒノキ乾燥材・柱:ヒノキ乾燥材)と横架材無垢乾燥材(梁/桁/母屋:ベイマツ乾燥材)を標準仕様としていました。</p> <p>ウッドショック時も元々無垢乾燥材でプレカット工場に依頼していた為、ウッドショック時もプレカット工場も弊社加工分は間に合わせてくれました。</p> <p>今後は、梁・桁・母屋横架材にも出来る限り国産スギ無垢乾燥材の使用割合を増やす予定です。</p>	<p>構造材は可能な限り国産材を利用し、県材などの地域材も積極的に活用し、地域産業の活性化にも積極的に取り組んでいきたいと思います。</p> <p>また、室内の意匠においても、木材のあらし仕上げやアクセント壁の木板張りなど、木のぬくもりを感じる住宅空間をお客様にも提案していきたいと思います。</p>
<p>現在は、供給の安定性や価格等から使用する樹種を選んでおり、国産材も使用しています。</p> <p>今後も樹種ごとの特徴から適した箇所に、適した国産材を用い、取扱いの増加に取り組んでいく予定です。</p>	<p>弊社では地元密着で工事をしている工務店のため、出来るだけ地元で還元したいと山形県産材・市産材を使用しております。</p> <p>また、その旨を施主様にも伝えております。</p> <p>今後もこの取り組みを続けていく予定です。</p>	<p>安定的な木材の納品を可能にする為に、積極的な国産材の利用及び地元木材の利用の推進の取組みを目指しています。</p> <p>具体的には、柱は国産スギの集成材、土台は国産ヒノキの利用をしています。</p> <p>また、羽柄材は、地元山形県のスギ材を中心に利用しています。</p>
<p>地産地消で地元を少しでも元気にできるように、地元産の木材をできるだけ使用しています。</p>	<p>木材は国産、主に現場から50km圏内で生産・加工されたものを使用しています。</p>	<p>約5年ほど前から国産材の活用に取り組んでいます。</p> <p>今後は100%国産材化を目指します。</p>
<p>今後、国産材乾燥材及び、外材においても積極的にJAS製品を利用するよう努めます。</p>	<p>今後も国産材(県産材)を積極的に使用していきます。</p>	<p>出来るだけ国産材(乾燥材)の利用を心掛けています。</p>
<p>横架材(梁・桁・胴差)はベイマツを採用するケースが多いが、物件によってはスギ材を採用しています。</p> <p>柱、土台については引き続きスギ、ヒノキを採用しています。</p>	<p>現在は主要構造にて50%以上の国産材利用を目指しており、主に柱・土台にて国産材を使用している。</p> <p>今後も国産材を積極的に採用していきたいと考えます。</p>	<p>国産材を積極的に使用することによる利点を十分に理解して、お施主様へ喜んで使っていただけるようにしていきます。</p> <p>また、下請け業者や運送業者とも課題等を検討し、最終的には建物の性能向上を目標として進めていきたいと思っております。</p>
<p>当社は在来工法と2X4工法の2種類の工法を採用しており、在来工法は杉の集成材を管柱として標準採用しています。</p> <p>2X4工法については、杉のスタッドを標準採用しており、それ以外の部位については、今後必要に応じて検証を行う予定です。</p>	<p>現在は、国産材の使用に特に意識を高く持っていたわけではないが、今後は予算及び強度のクリア等で使用可能な範囲で国産材の割合を高くして、数年前のウッドショックのようなことが、起きても慌てないように対応していきたいと考えます。</p>	<p>木材は可能な限り国産、県産材を活用し、新潟県が行っている県産材利用を推奨し、HPやSNSを活用して、その活動を周知するよう努めています。</p>
<p>和歌山県産の檜の無垢材を使用しています。</p>	<p>戸建住宅の縦枠・合板について国産材を使用するように促進しています。</p>	<p>価格によるが、積極的に国産材を利活用できたらと考えています。</p>
<p>構造材・面材に関しては100%国産材で建てています。</p>	<p>合板について国産材を使用するように促進しています。</p>	<p>枠組壁工法については、国産杉材のスタッドを今後使用したいと思っております。</p>
<p>国産材を積極的に使用しています。また、今後も使用していく予定です。</p>	<p>今後使用できる部材に関しては、国産材料の使用を顧客に対して提案、国産材料のメリットなどを説明し国産材料の使用を推奨します。</p>	<p>国産材の利用について、積極的に導入したい意向です。</p> <p>価格面での調整が出来れば、導入する方向です。</p>
<p>無垢材の使用を希望するクライアントもあり、少しでも無垢材の良さが現れる箇所に使用しています。</p>	<p>国産材のJAS製材の良さを施主さんにPRして、比率を80%に高めます。</p>	

2. 設計における取組（令和4年度実績）

（7）国産材の利用に関する現在(又は今後)の取組内容

<p>個別予算の許す範囲において、国の利用を進めています。</p> <p>県内及び市内の地元産スギ、ヒノキを使うことを心がけているが施工者の状況により強制することはしません。</p> <p>また、地元の工務店、建設会社、木材供給会社、森林組合との関係強化を念頭に情報交換をしています。</p> <p>設計に際しては、早い段階での工務店との情報共有を行い、スムーズな施工態勢に移れるように配慮しています。</p> <p>理想的には建築主が、経済性だけを優先せず、進んで「地元の木を使いたい」と思える環境を作り出せることが大切だと感じています。2</p>	<p>自社で国産、県産材の原木を仕入れ、製材、乾燥、加工までの製品化を一貫して行っており、その製品を使用して板倉構法での家づくり(個人住宅がメイン)をしています。</p> <p>信州木材認証製品の認証工場でもあります。</p> <p>住宅に使用する材料全体に占める木材割合が高いため、地域の木材消費、循環に大きく貢献する重要な仕事であると自負しています。</p> <p>今後は更に身近な伊那市産の木材を、山と繋がりつつ使用できるよう努めていきたいと思っています。</p>	<p>現在は土台、柱は品質、性能の確かな国産材(JAS製品)100%利用していますが、梁等の横架は安価に設計強度を確保しやすいベイマツを主として使用しています。</p> <p>しかしながら、昨今の海外情勢の影響や、木質内装へのニーズの高まりもあり、梁等にも積極的にJAS国産材(杉、カラマツ等)を活用していくことで、材料の安定供給や変化する顧客ニーズに応えていきます。</p>
<p>案件の条件合わせながら、内装材、造作材を含めた積極的な国産材の活用を推進します。</p> <p>補助金の有無にかかわらず、柱、横架材の50%以上をJAS製材とすることを目標に事業を推進します。</p>	<p>学生対象のインターンシップや中学生対象の職業体験、小学生を対象にしたワークショップなどで伐採体験や製材所の見学、木工の体験を通じて木育を行っています。</p> <p>住宅以外の建築物において木造を推薦し木材の使用量を増やしています。</p>	<p>現在は、上記記載通りの国産材の使用割合となっていますが、今後は内装材などを国産材利用などでできればと思っています。</p> <p>昨今、内装の木質化が少なくなっていますが、内装の木質化を積極的に取り組めるように普及していければと思っています。</p>
<p>国産材はもとより、構造材に関しては、出来る限り地域材を使用しています。</p> <p>地産地消の考えのもと、現在、全てのお客様の住宅において、国産材を使用した建築を達成しています。</p> <p>また、構造材床材壁材において、国材の無垢材を利用して、木のぬくもりを感じていただける家づくりを推進しています。</p>	<p>構造材・羽柄材は国産材(特に県産材)を積極的に活用しています。</p> <p>年間供給戸数のうちの半分以上は構造材・羽柄材の100%に国産材(県産材)を利用し、それ以外の物件でも50%以上は国産材(県産材)を利用するようにしています。</p> <p>内装材、造作材に関しても可能な限り国産材を利用しているが、今後は更にその割合を増やしていきたいです。</p>	<p>国土の約3分の2を占める森林資源の有効活用として、CLT材を利用した建物を積極的に取組む所存です。</p> <p>CLT材は鉄筋コンクリートの凡そ半分の重量のため建物の軽量化が図れる上、耐震性・耐火性・断熱性にも優れます。</p> <p>国産材の活用により、森林伐採・植樹など山林保全を促進させ循環型社会の役割を担う先導的な役割を果たしたいと考えます。</p>
<p>施主様にデザインの詳細を得た上で、出来る限り国産材(長野県産材)を現わした意匠とし木の温もりを感じられる住宅を設計していきます。</p>	<p>自社の建築住宅には土台、柱部において国産材の使用を優先して活用しています。</p> <p>今後も事業趣旨に賛同し積極的に国産材の使用をしてまいります。</p>	<p>山の循環が少しでも好転するよう、構造材は勿論、内外装材(外部仕上材・床・羽目板・家具など)は県産材のスギを採用する様に努めています。乾燥方法は工期により検討しています。</p>
<p>お客様に国産材の良さを理解していただくように、施工前に建築士から細かく説明し、安心してもらえるよう取り組んでいます。</p> <p>さらに、上棟式などのタイミングで実際の構造を見ながら説明している。</p>	<p>耐久性が高く、寿命の長い国産材の標準仕様とし、需要率を多く進めていくよう推進致します。</p>	<p>構造材は、主に、スギ・ヒノキなどの国産材を使っています。</p> <p>今後も、積極的に利用していきます。</p>
<p>構造材・面材に関しては100%国産材で建てています。</p>	<p>構造躯体はツーバイフォーの為、SPFを使用しています。</p> <p>壁合板以外に国産材の合板を推進しています。</p>	<p>価格によるが、積極的に国産材を利活用できたらと考えています。</p>
<p>設計内部空間に国産無垢材の利用を心がけています。</p>		

国産材等の利用に関する取組の状況

本事業を申請するにあたり、申請者は国産材等の利用に関する取組の状況を報告していただきます。

「1. 施工における取組」については必ず記入してください。

「2. 設計における取組」については、設計利用にも申請する場合であって、設計事業者が施工事業者と異なる場合（共同申請する場合）にのみ、設計事業者の取組について記入ください。

※要記入箇所：

1. 施工における取組（令和4年度実績）

- (1) 申請者の主な活動地域
- (2) 申請者の木造住宅の年間供給戸数
- (3) 主に建築する住宅の種類
- (4) 主に使用する木造住宅の工法
- (5) 住宅の設計も自社で取り組んでいますか

(6) 建築した住宅における部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種

	柱 (管柱・通し柱)	横架材		羽柄材 (間柱、筋交い等)	面材 (床、外壁、屋根等)	内装材・造作材
		土台等(土台、大引、母屋、棟木)	土台等以外			
①各部材における国産材の使用割合	<input type="text"/>					
②各部材において主に使用した製品	<input type="text"/>					
③ ②で選択した製品の主な樹種	<input type="text"/>					

※枠組壁工法の場合、縦枠・上下枠は柱材に含め、床根太・端根太・頭つなぎは横架材のうち土台等以外に含める。

※丸太組工法の場合、壁を設ける際に、水平に積み上げる製材は横架材のうち土台等以外に含める。

(7) 国産材の利用に関する現在(又は今後)の取組内容を具体的に記載してください。

2. 設計における取組（令和4年度実績）

- (1) 申請者の主な活動地域
- (2) 申請者の木造住宅の年間供給戸数
- (3) 主に建築する住宅の種類
- (4) 主に使用する木造住宅の工法
- (5) 住宅の施工も自社で取り組んでいますか

(6) 建築した住宅における部材別の国産材・輸入材の使用割合、主に使用した製品・樹種

	柱 (管柱・通し柱)	横架材		羽柄材 (間柱、筋交い等)	面材 (床、外壁、屋根等)	内装材・造作材
		土台等(土台、大引、母屋、棟木)	土台等以外			
①各部材における国産材の使用割合	<input type="text"/>					
②各部材において主に使用した製品	<input type="text"/>					
③ ②で選択した製品の主な樹種	<input type="text"/>					

※枠組壁工法の場合、縦枠・上下枠を柱材に含め、床根太・端根太・頭つなぎを横架材のうち「土台等以外」に含める。

※丸太組工法の場合、壁を設ける際に、水平に積み上げる製材を含める。

(7) 国産材の利用に関する現在(又は今後)の取組内容を具体的に記載してください。